



農事改良資料第十二  
昭和五年三月

本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥及麥酒ニ關スル調査

農林省農務局

始



579-347



和五年一月

發行所寄贈本

本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥ノ栽培ハ近時著シ  
 キ發達ヲナシタリト雖モ未タ之カ生産、需給等  
 ノ狀況明カナラサリシタメ當局及當業者ノ不便  
 甚カラサリシヲ以テ各道府縣及各麥酒會社等ニ  
 其ノ他廣ク資料ヲ蒐録シ一般當業者ノ參  
 考ニ資セシメカタメ茲ニ印刷ニ附ス

農林省農務局



本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥——及麥酒ニ関スル調査

目次

甲 麥酒用大麥	
一 麥酒用大麥ノ生産	五五
(一) 麥酒用大麥ノ生産	五五
(二) 道府縣別生産	六五
(三) 會社別契約栽培面積、取引數量及價額	六〇
二 麥芽ノ輸入	一〇
(一) 年別輸入額	一六
(二) 月別輸入額	一六
(三) 仕出國別輸入額	一七
(四) 仕入港別輸入額	一九
三 麥酒用大麥ノ消費	二〇
四 麥酒用大麥ノ取引及價格	二一
(一) 道府縣別取引方法及價格決定方法	二二
(二) 道府縣別麥酒用大麥ノ標準價格	二二
乙 麥酒	二六
一 麥酒ノ生産	三二
二 麥酒ノ貿易	三二
(一) 年別輸入額	三四
(二) 年別輸出額	三六

(三) 月別輸出額	三八
(四) 仕向國別輸出額	四一
(五) 仕出港別輸出額	四三
(六) 年別移出額	四六
(七) 月別移出額	四八
(八) 仕出港別移出額	五一
三 麥酒ノ消費	五三
丙 麥酒用大麥ノ栽培	五四
一 栽培ノ沿革	五四
二 品質及品種	五五
三 耕種概観	五六
四 契約栽培	五八
(一) 道府縣別契約開始年次	六四
(二) 契約事項	六四
(三) 生産者側ノ契約當事者	六五
(四) 道府縣及各級農會ノ契約栽培ニ對スル關係	六八
(五) 道府縣ノ契約栽培ニ對スル意見	七三

附録

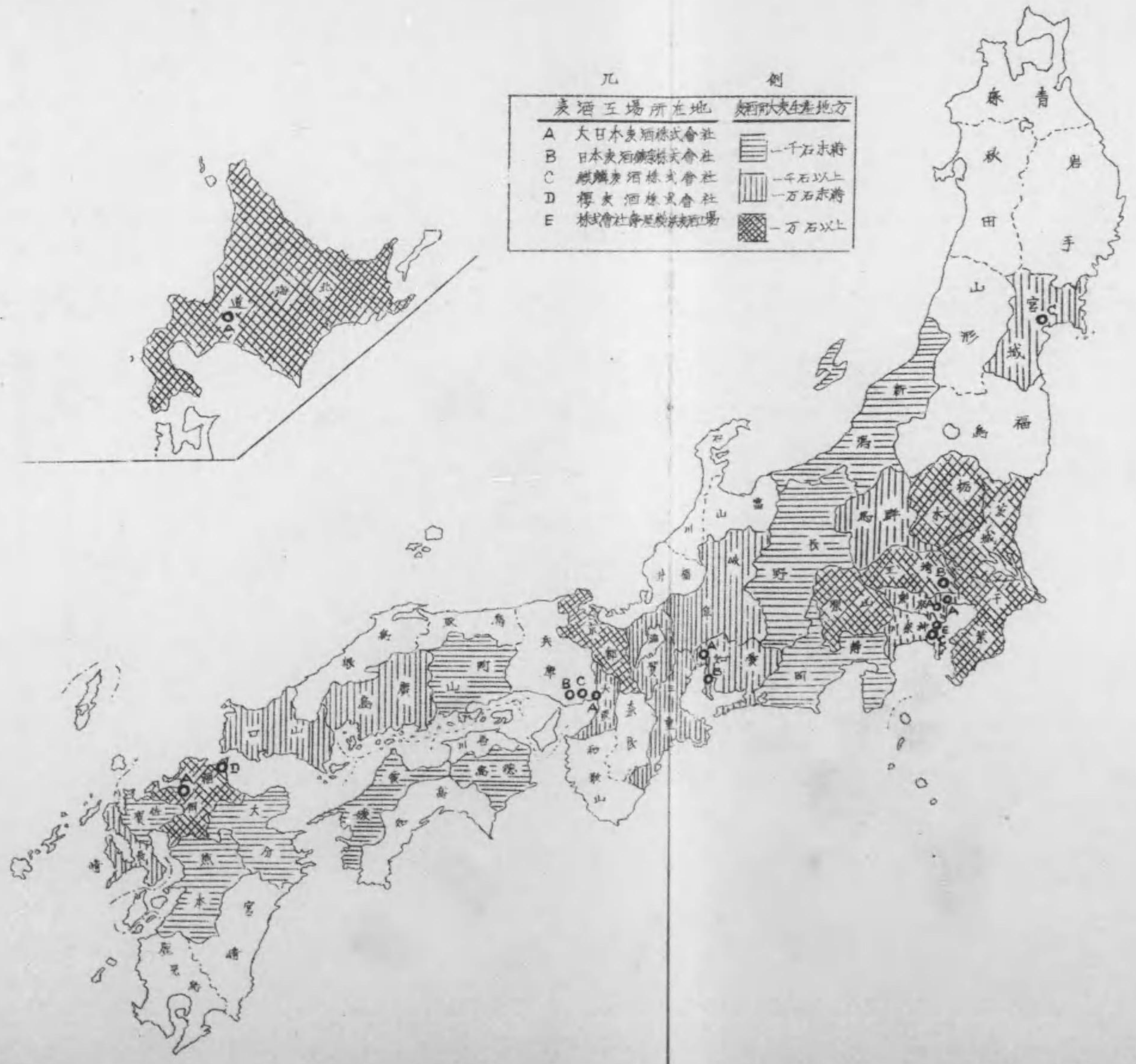
一 麥酒ノ醸造	一
(一) 醸造業ノ沿革	一
(二) 醸造法ノ概要	七
二 麥酒會社ノ概況	七
三 「ホンプ」ノ生産及貿易	二六

(一)	「ホップ」ノ生産	二六
(二)	「ホップ」ノ輸入	二七
(三)	年別輸入額	二七
(四)	日別輸入額	二八
(五)	仕出額別輸入額	三〇
(六)	仕入額別輸入額	三一
(七)	大麦、麥芽、麥酒及「ホップ」ノ関税率沿革	三一
(八)	麥酒用大麦及麥芽ノ重量及容量並麥芽及麥酒ノ生産状況	三二

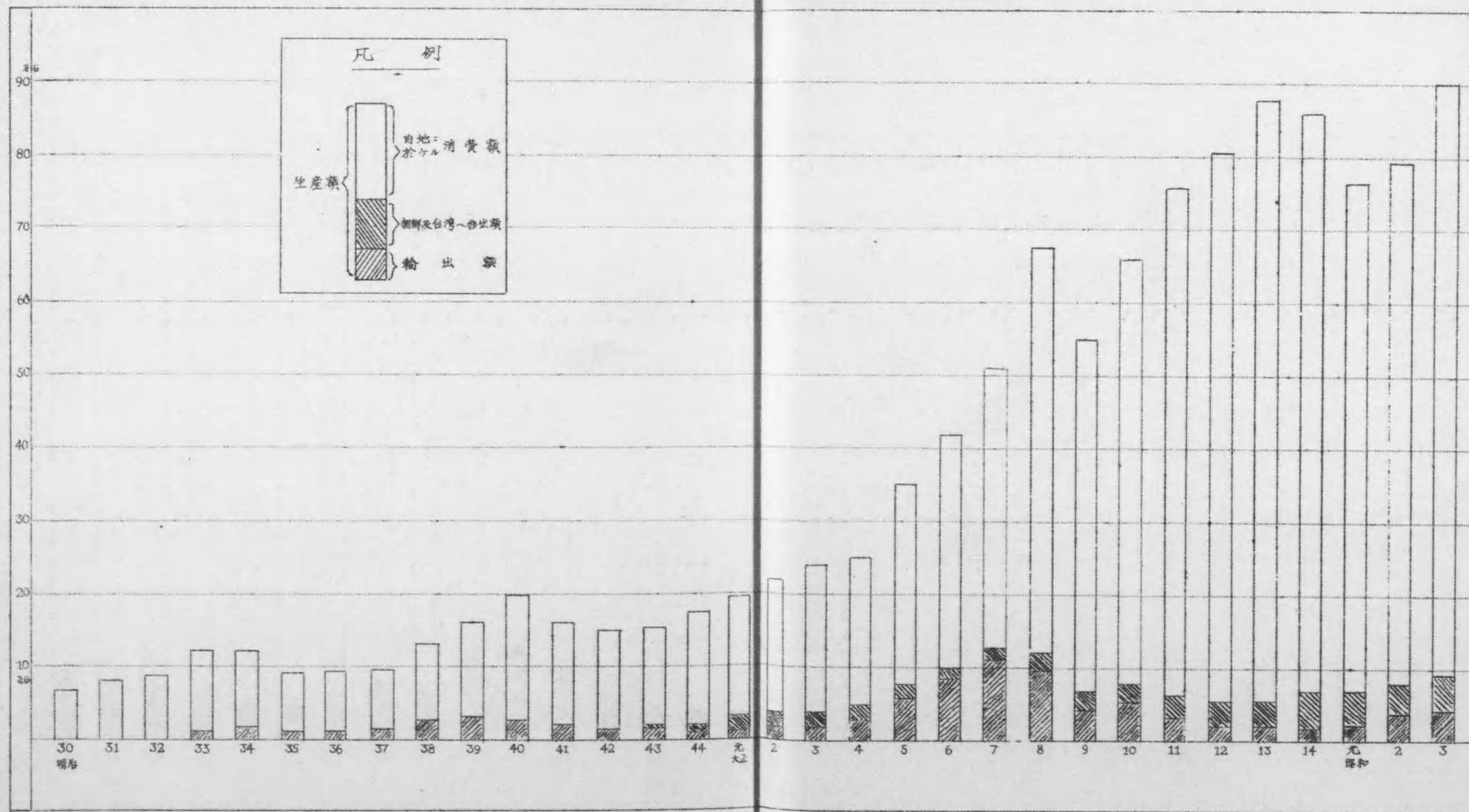
圖表

- 一 道府縣別麥酒用大麦及麥酒工場所在地
- 二 本邦内地ニ於ケル麥酒用大麦ノ生産及消費
- 三 本邦内地ニ於ケル麥酒ノ生産及消費

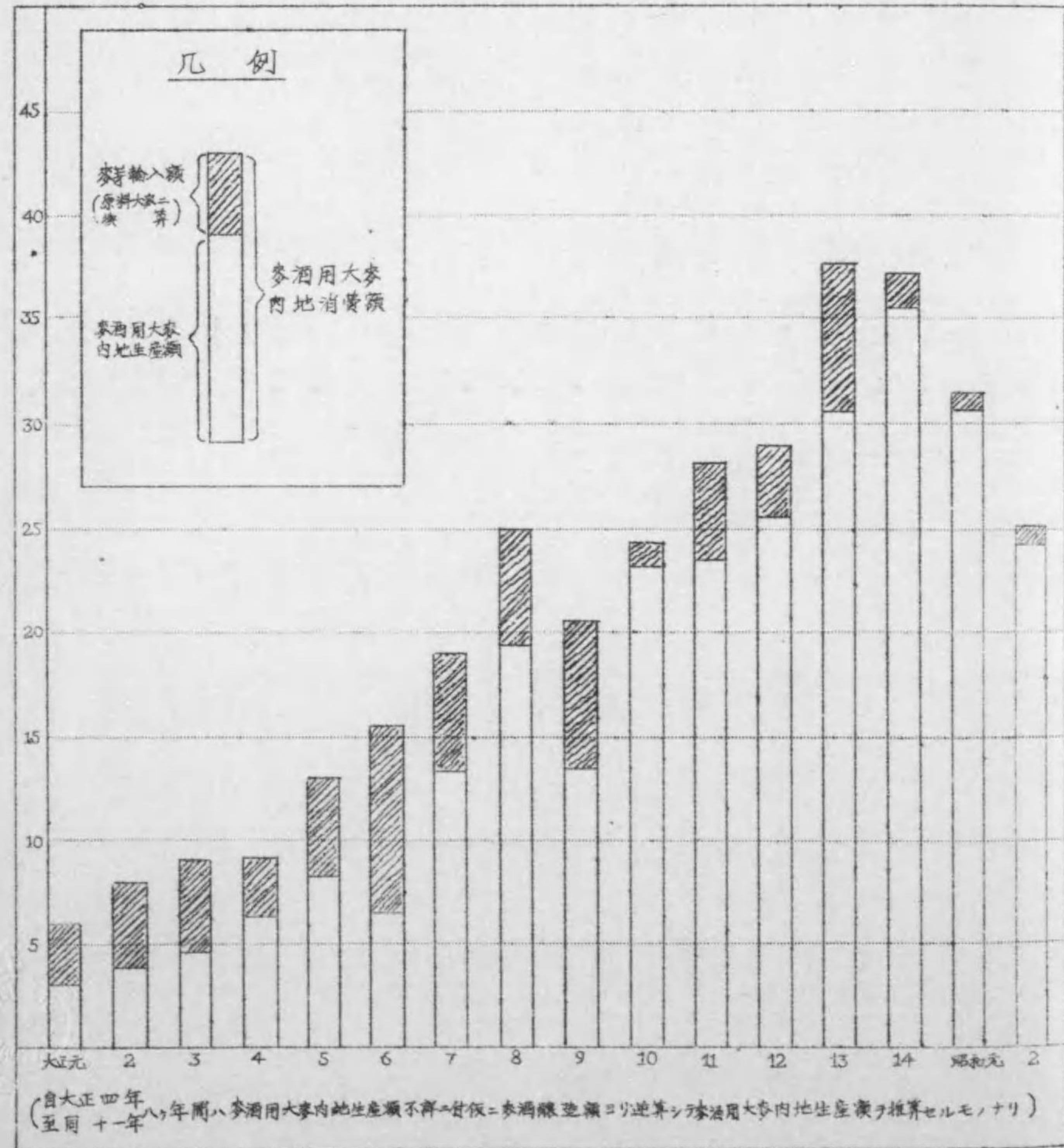
道府縣別麥酒用大麥生產額及麥酒工場所在地



本邦内地ニ於ケル麥酒ノ生産及消費



本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥ノ生産及消費



内平



本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥及麥酒ニ関スル調査

甲 麥酒用大麥ノ生産

本邦内地ニ於ケル麥酒醸造業ハ明治五年頃ヨリ開始セラレタリト雖モ當時ハ未タ麥酒ニ適スル大麥ノ栽培極メテ少ク又各麥酒會社ニ於テモ大部分ハ麥芽工場ヲ有セナリシ關係上原料麥芽ノ大部分ハ之ヲ海外ノ輸入ニ仰キタルモノ、如シ只僅ニ札幌ニ於ケル北海道開拓使農務ノ麥酒醸造場力明治九年頃ヨリ契約栽培ニ依リ内地産大麥ヲ使用セル程度ナリ

其ノ後農商務省及各支那會社等力麥酒用大麥ノ栽培ヲ奨励シ明治三十五年大阪麥酒會社力京都府下ニ於テ契約栽培ヲ開始セシ以テ漸次麥酒用大麥ノ栽培ハ増加シ現在ニ於テハ殆ト各道府縣ニ及リ(自大正十四年)至昭和二年(三ヶ年)平均ノ栽培面積ハ契約栽培及契約以外ノモノヲ合算シテ約一萬八千町歩、其ノ生産額ハ約三十萬石ノ麥十二萬石ニ達セリ

年次	面積		生産	
	契約栽培ニヨルモノ	契約栽培以外ノモノ	契約栽培ニヨルモノ	契約栽培以外ノモノ
大正十二年	一五〇、二八五	一四、〇〇〇	二六、三六二	三〇、一三九
大正十三年	一八、三三〇	一四、〇五〇	二七、九一五	二八、二一三
大正十四年	二〇、八三〇	一七、九三〇	三二、一六〇	三三、四八六
昭和元年	一六、二〇〇	一七、一六〇	二七、六八八	三三、一四〇
昭和二年	一三、三六〇	一七、一〇五	二〇、九七三	三六、五七四
自大正十一年至昭和二年之平均	一六、七四四	一六、〇三三	二六、一三五	三二、一一〇
自大正十四年、昭和元年、昭和二年平均	一六、七八四	一七、〇六五	二六、九三三	三四、六六七
以上合計	一八、五二四	一八、三四六	二六、三六二	二九、六五〇
以上合計	一九、七五三	一八、四九〇	二七、九一五	三〇、四三八
以上合計	二二、六八三	一七、八二八	三二、一六〇	三五、五〇九
以上合計	一七、八二八	一七、一〇五	二七、六八八	三三、一四〇
以上合計	一四、九七三	一四、九七三	二〇、九七三	三六、五七四
以上合計	一六、七四四	一六、〇三三	二六、一三五	三二、一一〇
以上合計	一六、七八四	一七、〇六五	二六、九三三	三四、六六七

備考 一 本表ハ各道府縣ノ報告ニ依ル



(二) 道府縣別生産  
(1) 栽培面積

道府縣	昭和二十二年	昭和二十三年	昭和二十四年	昭和二十五年	昭和二十六年	昭和二十七年	昭和二十八年	昭和二十九年	昭和三十年	昭和三十一年	昭和三十二年	合計
北海道	23,360	25,240	25,540	29,440	34,440	34,440	34,440	34,440	34,440	34,440	34,440	34,440
東北	7,340	7,750	7,750	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550
関東	9,050	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230	10,230
中部	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330	13,330
近畿	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500
中国	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900
四国	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
九州	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
計	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

(1) 生産額

道府縣	昭和二十二年	昭和二十三年	昭和二十四年	昭和二十五年	昭和二十六年	昭和二十七年	昭和二十八年	昭和二十九年	昭和三十年	昭和三十一年	昭和三十二年	合計
北海道	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240
東北	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300
関東	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740	2,740
中部	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
近畿	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
中国	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
四国	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
九州	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
計	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000







計	八八八	一五五二	一八七三	一八七三	一八七三	一八七三	一八七三	一八七三	一八七三
計	一五二六	二一九五	三六五五	五三六五	七二七三	九一八一	一一〇九〇	一二九〇〇	一四七〇〇
計	一五二六	二一九五	三六五五	五三六五	七二七三	九一八一	一一〇九〇	一二九〇〇	一四七〇〇

(二) 櫻麥酒株式会社 (舊帝國麥酒株式会社 昭和四年一月改稱)

年次	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十
次	二	三	四	五	六	七	八	九	十

2. 道府縣別

道府縣名	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
東京	三五七六	六七三九	七九一〇	一〇八八二	一三九一八	一七〇二〇	二〇一三〇	二三二四〇	二六三五〇
山梨	七三五	一三四五	一六六〇	一八七五	二〇九〇	二三〇五	二五二〇	二七三五	二九四〇
京都	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
大阪	四六四一	八四二五	一二三〇九	一六二〇三	二〇〇九七	二三九九一	二七八八五	三一七七八	三五六七二
兵庫	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
奈良	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
和歌山	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
徳島	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
香川	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
高松	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
愛媛	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
高知	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
福岡	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
熊本	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
大分	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
宮崎	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
鹿児島	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇
沖縄	三三〇	四八〇	六三〇	七八〇	九三〇	一〇八〇	一二三〇	一三八〇	一五三〇

本其ノ他

1. 歳計

年次	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
大正	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六
全	一〇八	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六

備考 一其ノ他ノ主ナル販賣先及用途ハ

麥酒會社・ウイスキー會社、地方商人、車隊、養鶏家等へ醸造原料用トシア食料トシア又飼料等トシア販賣セラル

2. 道府縣別

道府縣名	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
東京	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
山梨	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
京都	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
大阪	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
兵庫	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
奈良	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
和歌山	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
徳島	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
香川	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
高松	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
愛媛	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
高知	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
福岡	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
熊本	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
大分	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
宮崎	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
鹿児島	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
沖縄	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

計	1	14,335,879	1,863,331	1,477,770	1,102,221	1,968,000	9,682,155	2,515,164
---	---	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

備考

一 其ノ他ヘノ販賣先及主ナル用途

府縣名	販賣先	主ナル用途
茨城	日美醸造會社	麥酒製造用
埼玉	地方商人	鉛・ウイスキー製造用
新潟	地方商人	食用
山梨	甲府方面	食用
長野	長野方面	食用
東京	東京地方	食用 (精白シテ平夫トシテ)
山梨	山梨地方	食用 (精白シテ平夫トシテ)
京都	京都地方	食用 (精白シテ平夫トシテ)
兵庫	兵庫地方	食用 (精白シテ平夫トシテ)
熊本	熊本地方	食用 (精白シテ平夫トシテ)
本郡	本郡内養鶏家	飼料 (不適合品ヲ)

二 麥芽ノ輸入

(一) 年別輸入額

年次	量	原料大麥換算	價	輸入單價 (百斤當)	年次	量	原料大麥換算	價	輸入單價 (百斤當)
明治二十九年	20,477	13,954	172,870	847	明治三十五年	29,862	20,420	330,351	1,106
三十年	23,233	15,894	221,535	933	三十六年	26,583	18,177	271,231	1,020
三一年	30,425	20,804	293,510	965	三十七年	37,398	25,504	381,335	1,022
三二年	42,447	29,122	408,620	1,090	三十八年	41,143	28,134	413,652	1,015
三三年	56,425	38,583	519,220	1,320	三十九年	66,668	46,568	647,922	1,075
三四年	66,844	45,028	765,634	1,662	四十年	65,593	44,845	610,666	1,066

年次	量	原料大麥換算	價	輸入單價 (百斤當)	年次	量	原料大麥換算	價	輸入單價 (百斤當)
四一年	72,510	49,744	890,651	1,211	大正七年	84,438	57,739	1,022,022	1,204
四二年	37,913	25,925	433,572	1,144	八年	82,331	56,435	1,509,038	1,827
四三年	37,935	25,940	414,952	1,094	九年	104,624	71,542	1,927,990	1,843
四四年	26,312	17,992	283,952	1,070	一〇年	105,191	71,347	3,522,000	3,340
大正元年	42,402	28,721	492,649	1,171	一一年	77,707	54,442	880,918	1,136
二年	62,114	42,474	729,314	1,714	一二年	45,808	31,385	698,490	1,522
三年	72,423	49,523	781,308	1,070	一三年	108,655	74,298	1,757,036	1,617
四年	38,098	26,051	422,415	1,114	一四年	24,684	16,870	346,294	1,403
五年	71,219	48,638	848,967	1,194	一五年	77,081	52,021	1,553,161	2,002
六年	134,997	92,331	1,648,631	1,781	一六年	51,911	35,191	876,633	1,689

備考

一 本表ハ大日本外國貿易年表ニ依ル  
 二 本表中麥芽ヨリ大麥ヘノ換算ハ麥芽生止ヲ七八% (重量) 原料大麥一石ヲ三〇貫トセリ (以下之ニ準ル)  
 三 東洋ハ明治五年横濱ニ「コプラン」氏ノ東洋醸造場開設以來輸入セラレタルモノナルモ明治廿八年以前ハ統計ノ依ルベキモノナシ其ノ數量明ナラス

(二) 月別輸入額

目次	量	原料大麥換算	價	額	月次	量	原料大麥換算	價	額
大正十三年一月	1,338	915	21,678	16,270	大正十三年六月	1,556	1,022	21,675	16,270
二月	1,671	1,144	27,191	20,435	七月	1,835	1,263	19,526	14,911
三月	1,914	1,317	32,880	24,478	八月	2,500	1,710	51,911	39,911
四月	1,182	808	14,478	10,978	九月	2,500	1,710	51,911	39,911
五月	1,251	862	15,770	11,970	十月	1,711	1,171	25,338	19,338



一	五〇三三	四七	五二六六	八七	二二	一〇二二二	一四五
二	七六〇八	六九				七六〇八	六九

備考

一 本表ハ大日本外資貿易年表ニ依ル  
 二 其他諸國ノ内 大正四一五 八主トシア露百重ヨリ  
 大正六一〇 八主トシア露洲ヨリノ輸入トス  
 三 大正一一一及一二二ノ年ノ額ニ於テハ震災ノ為横濱港ニ於ケル輸入ノ分不明ニ付之ヲ存マ

四 仕入港別輸入額

年次	横		神		戸		司		小		計	
	数	價	数	價	数	價	数	價	数	價		
大正一	三五二七	四〇八	六八七五	八三	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
二	四二九一	四八二	八九九五	八三	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
三	四四九三	四七五	八六八六	九〇	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
四	二六五〇	二七二	六五二二	七六	九〇	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	
五	四九三六	六二九	七〇四六	九〇	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
六	九八〇七	一四七	一三四三	二二	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
七	八四一五	一〇九	一三六三	二二	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
八	六二八三	一四一	二〇八四	三六	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
九	八五九五	一五八	一九五九	三四	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
一〇	一五二一	二五一	四三三八	一〇	一一〇	一三三	四二〇三	六二二一	七二九	四九二	四九二	
不詳												
計												

一	六五五五	二〇五九	四二一四	六九八	一〇八六五	一七五七
二	二四六八	三四六			二四六八	三四六
三	一〇三二	一三五			一〇三二	一三五
四	七六〇八	六九			七六〇八	六九

備考

一 本表ハ大日本外資貿易年表ニ依ル  
 二 大正七年ニ右諸港ノ外ニ入二担、九一三圓ノ輸入アリ  
 三 大正一一一二年ハ震災ニヨリ資料焼失ノ為不詳

三 麥酒用大麥ノ消費

年次	内地	産	麥芽輸入額(原料大麥ニ換算)		消費	總額
			数	價		
大正一		一九九六	二八七二	五八六八	一九九六	五八六八
二		三七五〇	四〇四七	七九七九	三七五〇	七九七九
三		四二一三	四九五二	九一六五	四二一三	九一六五
四		六六一一	二六〇五	九二一六	六六一一	九二一六
五		八二五四	四八六三	一五六四	八二五四	一五六四
六		六四一七	九二三一	一八七四	六四一七	一八七四
七		一三一七	五七上	一八九四	一三一七	一八九四
八		一九四一	五六四三	二五〇八	一九四一	二五〇八
九		一五二二	七二四四	二〇三七	一五二二	二〇三七
一〇		二二九七	一三三四	二四三〇	二二九七	二四三〇
一一		二二九七	四六四九	二八三一	二二九七	二八三一
一二		二五六五	三三三五	二八七八	二五六五	二八七八
計		四三七八	七四二九	三七八六	四三七八	三七八六



昭和一四年	三五五・九二	一六八・七九	五七・九七一
昭和二〇年	二〇八・九五六	六九・八九	三一・五九四五
昭和三〇年	二四六・三〇一	五二・〇二	二五・六〇三
昭和三五年	三六五・三二	四〇・二三九	七六・七七一
昭和三九年	三〇四・四五〇	九・六九〇	三一・五一四
昭和三九年至昭和三十九年平均			
昭和三十九年至昭和三十九年平均			
昭和三十九年至昭和三十九年平均			

備考 一、本表中昭和三十九年八月年間の内地生産額ノ調査ナキナメ不詳ニ付麦酒醸造額ヨリ逆算シテ内地生産額ヲ推算セルモノナリ

二、本表中麦酒及麦芽ノ原料大麦ヘノ換算ハ次ノ率ニ依ル  
 麦芽一石ヨリ麦酒三石（容量法止）  
 大麦一石ノ重量三〇貫  
 止七八%（重量法止）  
 大麦一石ノ重量三〇貫

### 四、麥酒用大麦ノ取引及價格

(一)道有縣別取引方法及價格決定方法

麦酒用大麦ノ栽培ハ現在ニ於テハ大部分契約栽培ニ依ルモノナルヲ以テ生産大麦ノ取引方法及價格決定方法等ハ殆ト全部契約書ノ記載ニ依リ決定セラル、モノナリ各道府縣ニ於ケル契約栽培ノ場合實際行ハレタル取引方法及價格決定方法ハ次ノ如シ

#### 北海道

一、販賣價格決定方法ハ七月中ノ本道雜穀相場ヲ基準トシテ尙東京大麦相場ヲ參考トシテ決定ス  
 二、受渡方法ハ會社五場附近ノ町村ニ於テハ各個人ハ五場内ニ運搬シテ直接受渡ヲナシ遠隔地ニアリテハ會社ヨリ其ノ他ノ驛ニ出係シテ各個人ト直接受渡ヲナスモノナリ

#### 宮城縣

一、毎年七月二十日ヨリ七月三十一日迄ノ十二日間ニ於ケル東京深川雜穀同業組合ニ於ケル茨城縣検査參事普通大麦正味二十八貫（二依）運取引ノ平均相場ヲ調査シテ之ヲ正味三十貫ノ價格ニ改算シテ受渡大麦正味三十貫ノ標準價格トシテ之ニ割増ヲナシタルモノヲ以テ受渡大

麦ノ價格トス

一等二割六分増、二等二割四分増、三等二割二分増受渡方法ハ相互協議ノ上最善停車場トス

#### 茨城縣

一、別紙契約書ノ通り

#### 栃木縣

一、東京深川雜穀同業組合、栃木縣宇都宮市場、全栃木町市場ノ三市場ノ普通大麦三等相場ヲ七月五日ヨリ十九日迄十五日間ノ相場ヲ採リ其ヲ各市場毎ニ平均シ其ヲ更ニ平均シタル價格ヲ以テ親値ト定メ其レニ契約書記載ノ割増ヲ附シ各等ノ價格トス  
 二、生産品ハ各組合ニ於テ最善ノ驛ニ運搬シ會社並農會立會ノ上縣検査ニヨリ格付ケヲナシ受渡ヲ

#### 群馬縣

一、別紙契約事項ニ基キ決定

#### 埼玉縣

一、價格決定方法ハ別紙契約書ニ基キ深川雜穀同業組合ニ於ケル埼玉縣検査三等大麦價格ヲ基準トス

二、受渡方法ハ一口ニ合同ノ見本ヲ生産者ヨリ提出セシメ縣農會主催見本査定會ヲ開催該郡市町村農會及會社立會ノ上格付ヲ決定シ更ニ出荷期日及受渡驛ヲ決定八月廿ニ於テ見本品ト照會ノ上受渡スモ不合格所請筆外品ハ取引セズ

#### 千葉縣

一、別紙契約書ノ通り

#### 東京府

一、契約年度七月十一日ヨリ七月三十日迄ノ二十日間ニ東京雜穀同業同業組合ニ於ケル埼玉縣検査三等普通大麦ニ根據正味二十八貫相場ヲ調査平均シ之ニ30/28ヲ乘シ正味三十貫一石相場トナシタルモノヲ標準價格トシ之ニ左ノ割増ヲ附ス

一等二割六分、二等二割四分、三等二割二分

一受渡ハ際メ指定セル最寄停車場ニ於テ見本品ト引合セ検査ノ上(麦酒会社ヨリ社員出張者  
及府農會ヨリ立會ノ上)等級ヲ決定シ受渡ヲナス

神奈川縣

一別紙契約書参照

新潟縣

一生産者側契約當事者ハ各農毎ニニ合先採取リ之ヲ見本トシテ契約會社ニ送付シ契約會社ハ等級  
ヲ在座ニ別紙契約書ニヨリ取賣價格ヲ決定ス價格決定セハ生産者側ノ契約當事者ハ取渡メ契約  
會社へ出荷ス

山梨縣

一實際ニ於ケル値定メハ本縣ノ表價相場ヲ基準トシテ決定シ荷ノ受渡ハ驛ニ於テ秤量シ實物ト見  
本品トノ照合ヲ行フモノトス

長野縣

一契約書ニ基キ實施シツ、アリ

岐阜縣

一契約書記載事項ニ依リ標準價格調査期間中地廻價格ヲ調査シ規定ノ割増率ヲ乘シ麦酒友ノ價格  
ヲ算定スルモノトス

靜岡縣

一別紙契約書ノ通り

愛知縣

一六日本麦酒株式会社

契約書ニ基キ定メタル期間ノ名古屋米穀同屋組合ニ於ケル地廻台大麦同屋買付中値金一圓ニ對  
スル皆掛賣替相場ノ平均價格ヲ調査シ之ヲ「イ」トシ次ノ算式「100×50/100」ニ  
ヨリ大麦一石ノ標準價格トシ之ニ左ノ割増ヲ附シ「イ」トシ大麥正味三十貫一石ニ對スル各等

ノ取引價格トス

一等三割五分

二等三割三分

三等三割

三日本麦酒株式会社

契約書ニ依リ定メタル期間ノ名古屋米穀同屋組合ニ於ケル大麦平均相場ヲ標準價格トシ之ニ左ノ  
割増ヲ附シ決定ス

一等三割五分

二等三割三分

三等三割

三重縣

一契約書ノ通り

滋賀縣

一甲カ乙ヨリ購入スヘキ價格ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

一大阪時新報及大阪中外商業新報紙上昭和三年八月一日ヨリ八月三十一日迄ノ物價表補中大表  
一石ノ平均相場ヲ標準トシテ之ニ左ノ割増ヲ附ス

三等品 一石(正味三十貫)

二等品 一石ノ價格ニ金三十錢増

一等品 一石ノ價格ニ金七十錢増

外ニ獎勵、監督、審査、受渡等ニ要スル費用トシテ一石ニ付金二十錢ヲ支拂フモノトス

一現品ノ受渡ハ會社内トシ積込前身割検査ヲ行ヒ着荷ノ上約一割ノ係數ニ付重量検査ヲ行ヒ総重  
量ヲ決定ス

京都府

一取賣價格決定方法

大阪毎日、大阪朝日、大阪時新報、大阪中外商業新報紙上(普通以上ノ新聞ノ内ニ新聞ヲ掲  
ケ契約ス)ニ於ケル八月一日ヨリ全月末迄(或ハ八月一日ヨリ八月十五日迄ノ十五日間)ノ備  
中大表一石ノ平均價格ヲ標準トシ之ニ左ノ割増ヲ附シ一石(正味三十貫)ノ取引價格ヲ決定ス

又(以訂ニ於テハ八月中ノ河内大吏ノ平均價格ヲ標準トシテ四割増ニテ決定シタルコトアリ)但シ標準價格カ八割未滿ナルドキハ八割ニ對スル割増ヲナシ又標準價格カ十七割ヲ超ユルトキハ十七割ニ對スル割増ヲナス

移出検査三等品 標準價格ニ二割五分増

移出検査二等品 移出検査三等品ノ價格ニ三十銭増(或ハ四十銭増ノモノアリ)

移出検査一等品 移出検査三等品ノ價格ニ七十銭増尙買入手数料トシテ會社ハ一石ニツキニ十銭ヲ支拂フ

受渡方法

契約セル際決定セル標準内ニ於テ受渡ヲナス

受渡前ノ運賃其ノ他ノ諸掛ハ生産者ノ負担トシ積込後ノ運賃ハ會社ノ負担トス但シ京都府穀物検査ノ移出手数料ハ會社ノ負担トス

大阪府

取賣價格決定方法

契約栽培ヲ為スニ當リ三島郡農會長、郡農會主任技師及栽培者ノ代表者数名、大日本麦酒株式會社ニ出向ヒ備中大吏一石ノ價格(翌年自八月一日至八月三十一日、大阪時事及大阪中外商業新聞紙上物價表ノ備中大吏一石ノ平均相場)ニ對スル割増シ金額ヲ定メ取賣價格ヲ決定スルモノトス

受渡ノ方法

取賣ニ先立チ(七月十日迄)各契約者ハ見本トシテ收穫表ニ合フ三島郡農會ニ持チ來リ郡農會ハ之ヲ一括シ契約會社ニ送付ス會社ニ於テハ見本ニ依リ①一斗ノ重量②色澤③粒形④乾燥⑤芽發⑥純否等ヲ査定シ之ヲ基本トシテ各生産者(契約栽培ヲナス村内三ヶ所位ニ集合ス)ヲ廻リ検査ヲナシ手帳ヲ分テ各品ノミヲ正味十二貫依トシ會社ニ送付ス此ノ場合運賃ハ積込後近ハ生産者持トシ積込後ヨリ會社運賃ハ會社ニ於テ負担ス而シテ會社ハ後日栽培代表者立會ヒノ上、坂取検査ニ依リ一俵ノ量目ヲ査定シ受渡ヲ終ルモノトス

奈良縣

價格決定方法ハ別紙契約書ノ通り

受渡方法、着道方法ハ別紙契約書記載ノ通り耕作者ニ於テ行ヒ各組合ヲ一纏トシテ最寄驛ニ期日時ヲ定メテ集合セシメ等級決定ノ為、京都府南桑田郡農會技師立會、奈良縣雜穀同業組合検査員検査ヲ行ヒ運送店ニテ縦横混ヲカケ所定ノ場所ニ發送セリ發送驛ヨリ到着驛ニ至ル運賃ハ會社ノ負担トス

受渡ニ要シタル耕作者ノ負担(一俵當)

一検査手数料 金四銭

二電掛 金二銭五厘

三受檢準備人夫賃 金一銭五厘

計 金八銭

岡山縣

取賣價格決定ハ別紙約定書ニ記載セル通り備中大吏一石ノ平均相場ヲ標準トシ之ニ等級ニ準シ割増金ヲ加ヘタルモノヲ會社ニ於テ決定シ郡農會ニ通知ス

受渡方法ハ其ノ期日ハ縣メ會社ヨリ懸幕務課ヘ通知ス依テ穀物検査所ト協議シ會社ノ指定期日

内ニ於テ其ノ日時、受渡驛名、依數等ヲ郡別ニ決定シ受渡ニ附スル左記注意事項ト共ニ郡農會

ヘ通知ス

注意事項

一、醸造用大吏ハ發芽作業ノ關係上特ニ乾燥ヲ要スルニ至リ收穫期ニ於ケル乾燥ニテハ不充分ナルヲ以テ必ス炎スニテ再乾燥ヲナスコト

一 調製ニ於テモノ除去遺徳ナルモノ又ハ過度ノ調製ヲ行ヘルモノアリ此矣注意ノコト  
 一 一俵容量ハ正確ニ四斗宛トナスコト  
 一 皆掛重量ヲ各俵毎ニ生産票裏ノ裏ニ記入ノコト（前年ハ風袋重量モ各俵毎ニ秤量記入セシモ本年ハ之ヲ廢シ容量検査ノ際秤量シ町村別ニ一定ノ風袋ヲ算出ス）  
 一 受換準備トシテ移出票裏ヲ各俵ニ付シ該管事項ヲ記入シオクコト  
 一 受換ニ関シテハ夫所長ト豫メ協議スルコト  
 一 受換迄ニ左記様式ノ受換明細書ヲ三通作製シ番号皆掛重量町村氏名ハ各俵毎ニ豫メ記入シオクコト

番 掛 一 風袋重量 一 皆 掛重量 一 正 亦重量 一 等 一 派 町 村 氏 名 一 代 金

一 受換當日雨天ノ場合ト雖モ豫定月別ハ変更セス  
 一 受換當日ハ同原町村農會副農會職員縣穀物検査監督及夫所長輸出検査員等立會シ町村別ニ縣ノ検査規則ニヨリ一定俵数ノ容量ヲ検査シ風袋重量ヲ秤リ以テ一町村ノ風袋重量ヲ決定シ更ニ各俵ニ付等級ヲ決定シ受換明細書ニ一俵毎ニ等級ヲ記入ス斯クシテ全部ノ検査終了セハ直千ニ運送店ヲシテ吹田五場へ現品ヲ輸送セシメ現品到着セハ會社ニ於テ受換明細書ニヨリ代金ヲ精算シ郡農會へ送金ス然レ共生産者ノ都合ニヨリ至急代金ヲ要スル場合ニハ精算ヲ待タズシテ内渡金ヲ（價格ノ約ハ割一直ニ會社ヨリ郡農會ニ送付ス）

黄 島 縣

一 價格決定方法  
 一 毎年自八月一日大阪時事 大阪毎日 大阪中外商業新報（時ニ変更アリ）掲載ノ備中大友一石ノ平均相場ヲ標準トシ之ヲ等級別ニ定メタル割増金ヲ加算決定スルコト  
 一 約定書記載ノ如シ  
 一 外ニ獎勵、監督、審査、受換ニ要スル費用  
 一 一石ニ付自大正十二年標準價格ノ百分ノ一 自大正十五年 二十銭 至昭和 二年

一 海上運賃補助

安 藝 大正十三年 石二十五銭  
 沼 和 二年 二十銭  
 御 調 三年 二十銭

一 受換方法

一 毎年受換直前各生産者別ニ見本ニ各俵ヲ撰出セシメ郡農會ニテ之ヲ選メ會社ニ送付シ會社ハ見本ニヨリ審査等級ヲ決定スルコト約定書記載ノ如シ  
 一 受換期日ニハ會社ヨリ原員出張郡農會町村農會関係職員立會ノ下ニ現品ト見本トヲ比較シ最後ノ決定ヲナス  
 一 積込群ヨリ吹田五場間ノ運賃ハ會社ノ負担トス

山 口 縣

一 別紙契約書ノ通り

徳 島 縣

一 其年ノ六月一日ヨリ六月十五日ニ至ル大阪市場ニ於ケル河内大表相場ノ平均ニ一割ヲ加ヘタル金額ヲ購入價格トス  
 一 兵庫驛積込迄ノ運賃及荷造費ハ出荷者ノ負担トシ其レ以後着荷迄ノ経費ハ購入者ノ負担トス  
 一 取扱手数料トシ一石ニ付其ノ購入價格ノ二分五厘ヲ別ニ交付ス  
 一 代金ハ着荷後史拂フモノトス

愛 媛 縣

一 別紙約定書ノ通り

福 岡 縣

一 別紙契約書ニ記載ノ通り

佐 賀 縣

一 取費價格決定方法

帝國麥酒株式會社トノ方法ハ河内大麥ノ平均相場（八月一日ヨリ十五日迄ノ平均相場大阪商業會議所ノ調査ニヨル）ニ一等三割大分、二等三割四分、三等三割二分増トス大日本麥酒株式會社ハ別紙契約書ニヨル

一 受渡方法

帝國麥酒株式會社ノ場合ハ縣農會ニ於テ契約者タル各郡農會穀物検査所會社其ノ地内採者立會ノ上標準表ヲ査定シ見本表ヲ穀物検査支所ニ送付シ期日ヲ定メ各縣ニ於テ等級ヲ決定シ取引ヲ

大日本麥酒株式會社ハ耕作者別ニ見本表ニ合符ヲ採取シ縣農會立會ノ上等級ヲ決定シ取引ヲ

長 崎 縣

一 別紙契約書ニ基キ麥酒受渡後直ニ耕作者ヨリ見本表ニ合符會社ニ送付シ縣農會並耕作者代表立會等級査定ヲ行ヒ期日ヲ定メ販賣指定縣ニ出納セシメ會社縣農會立會検査ノ上受渡ヲ行ヒ見本價格ノ約七割乃至九割ヲ内渡金トシテ受領シ八月十五日欲標準表價格決定ノ上残金ヲ受取ルモノナリ

熊 本 縣

一 別紙契約書ノ通り

大 分 縣

一 別紙契約書ノ通り

西									
山									
九三三									
九七五									
一三四六									
一一六六									
一〇四三									
一〇五二									



縣道	北海道	宮城	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	奈良	和歌山	鳥取	徳島	高松	香川	岡山	広島	山口	熊本	大分	福岡	
昭和二年	一四四	八〇	八六一	九二八	七八二	九五六	九一〇	八五三	八二〇	九〇〇	七五五	八一三	七三五	八二七	八八七	一〇一〇	八〇〇	八三四	六三三												
昭和五年	一三〇	七五〇	九四一	一〇〇三	八五二	九一二	一〇五二	九八八	八二五	八〇〇	一〇〇七	九五九	八二六	九二七	九八〇	一〇〇〇	一〇一〇	一〇三四	九七五												
大正十四年	一三六	八三三	一三四二	一四〇二	一三五八	一三三〇	一三七一	一三三〇	一三二五	一三〇〇	一三五七	一三二六	一三〇八	一三二六	一三六〇	一三二〇	一三六〇	一三四〇	一二七〇												
大正十三年	一四〇	一二二五	一〇三二	一一八一	八六〇	一四〇四	一〇八〇	一〇六五	一一四〇	一四〇〇	一四七一	九三〇	九二四			一三〇〇	一三三〇	一二四二	一一八六												
大正十二年	九三〇	八七八	一〇二二	一一〇二	一〇三二	七四五	九六〇	八五五	一四四〇	一一〇〇	九九三	一一三三				一二六〇	九五〇	一〇四二	一〇四二												
昭和十三年平均	一三〇五	七九三	一〇四八	一一四七	一〇七七	一〇六六	一一一一	一〇六七	一一二七	一〇三三	一一三三	一一三三	九九三	九八〇	一〇四五	一一一〇	一〇五七	一〇五六	一〇五七												
備考	札幌商工會議所見別物産表(平均ニヨル)		藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品	藤橋金三等品											

(口) 同時期ニ於ケル普通大麥ノ卸賣價格

年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
昭和十三年	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
大正十三年	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
大正十二年	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

年次	工場数	生産額	生産量	工場数	生産額	生産量	工場数	生産額	生産量	年次	工場数	生産額	生産量
東京	2	177,907	1,586,693	2	189,912	2,181,912	2	231,375	2,436,145	昭和	2	243,614	2,586,145
神奈川	1	93,576	400,899	1	104,412	461,412	1	165,577	722,688	昭和	1	177,764	722,688
埼玉	1	108,714	414,334	1	121,118	458,858	1	177,764	641,458	昭和	1	177,764	641,458
大阪	1	88,174	317,554	1	93,944	339,944	1	165,577	605,577	昭和	1	165,577	605,577

(四) 道府縣別麦酒生産  
備考 一本表ハ大藏省主税局年報ニ依ル

年次	大正	昭和	大正	昭和	大正	昭和	大正	昭和	大正	昭和
大正	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
昭和	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
生産額	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
生産量	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000

年次	工場数	生産額	生産量	年次	工場数	生産額	生産量
明治	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577
大正	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577
昭和	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577

乙 麥酒  
一 麥酒ノ生産

年次	工場数	生産額	生産量	年次	工場数	生産額	生産量
大正	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577
昭和	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577
昭和	1	155,577	1,155,577	昭和	1	155,577	1,155,577

三等品より純粋ア附セズ  
基津郡(大蔵ハ甚重大吏ノ栽培極メテ  
僅少ニシテア確実ナル標準ナシ)



三、麥酒ノ貿易  
 (一) 年別輸入額

備考 一、本表ハ大藏省主稅局年報ニ依ル

年次	小		大		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一七	七、八五〇	一〇、五六〇				
一六	七、八一四	一〇、三〇七				
一五	七、〇八三	九、五四七				
一四	七、〇三五	九、五四七				
一三	九、八一六	一三、三五七				
一二		六、九二九				
一一		一、七〇八				
一〇		七、六五七				
九		七、四五四				
八		九、七四五				
七		一三、八六四				
六		一〇、三〇八				
五		一〇、三〇八				

北	官	愛	福	計
海	城	知	岡	
道				
一	一	二	二	四
四、七〇九	三、〇五四	一〇、二九二	一、〇九五	七、九三三
一	二	二	二	一三
四、〇九八	四、八二二	九、三六九	一、二八四	七、七五三
一	一	二	二	一三
五、〇八二	五、四九二	九、五七六	一、四三三	八、三三二
一	一	二	二	一三
六、七三四	四、七六六	四、六三九	一、五三七	八、七五七
一	一	一	一	一
五、七八五	一、五三九	四、二二三	一、一七八	八、〇九七

一八	九、八五〇	一三、二四七							
一九	一〇、四九〇	一八、二八七							
二〇	一八、三九一	三、七四四							
二一	二六、八九六	四、九四二							
二二	一三、八九七	二、〇六二							
二三	一〇、六〇四	一、四八〇							
二四	七、八三二	一、四三九							
二五	八、〇九四	一、二八五							
二六	六、二五六	一、〇四二							
二七	二、六五六	五、一六一							
二八	四、七五六	七、六三五							
二九	二、三〇五	三、四一五							
三〇	二、三三五	三、五二二							
三一	二、八四四	四、一七九							
三二	一、四七三	二、八〇三							
三三	一、八六二	三、四〇四							
三四	一、二七七	二、五八九							
三五									
三六									
三七									
三八									
三九									
四〇									
四一									

四二	三九七九	一九九一三	二一九	一九九一三
四三	六四一九三	三〇九一四	三五三	三〇九一四
四四	四七二一八	二二二一八	二九九	二二二一八

備考

一 本表ハ大日本貿易年表ニ依ル  
 二 明治二八年以前ノ小樽ノ概ハ大樽及小樽ノ合計ナリ  
 三 明治三五年以降ノ樽入ノ概ハ大樽小樽及樽入ノ合計ナリ  
 四 明治四五年以降ハ皮酒ノ輸入数量僅少ニ就テ統計ハ其他ノ酒類ニ輸入セラレタルヲ以テ不詳ナリ  
 五 皮酒ノ輸入ハ明治元年頃ヨリ開始セラレタルモノノ如クナルモ統計ノ概ルハキモノナク不詳

大小樽一本ハ正味一合八勺 大樽一本ハ正味三合大勺入ナリ

(二) 年別輸出額

年次	小樽		大樽		樽入		合計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
明治二九			五二九	八四〇.五	一	八四〇.五	
三〇			五五四	五七〇.二		五七〇.二	
三一			六八四	一四三八.六		一四三八.六	
三二			八五六	一七五六.五		一七五六.五	
三三			二八三	五二〇.五		五二〇.五	
三四			三六二	八四六.〇		八四六.〇	
三五			一八三	四七八.〇		四七八.〇	
三六			二二九	六〇二.三		六〇二.三	
三七			二六二	六四一.三		六四一.三	

年次	大樽		小樽		樽入		合計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
明治二九	三三〇	四三三〇.七	五二九	八四〇.五	一	八四〇.五	
三〇	二九八	三〇五四.五	五五四	五七〇.二		五七〇.二	
三一	三〇四	三〇九六.六	六八四	一四三八.六		一四三八.六	
三二	三〇六	三〇九六.六	八五六	一七五六.五		一七五六.五	
三三	二八四	二八三三.三	二八三	五二〇.五		五二〇.五	
三四	二四二	二四九四.三	三六二	八四六.〇		八四六.〇	
三五	二四四	二四九四.三	一八三	四七八.〇		四七八.〇	
三六	二二八	二二八二.八	二二九	六〇二.三		六〇二.三	
三七	二二二	二二二二.二	二六二	六四一.三		六四一.三	
三九	二一〇	二一〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四〇	二〇〇	二〇〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四一	一八九	一八九〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四二	一八八	一八八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四三	一八七	一八七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四四	一八六	一八六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四五	一八五	一八五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四六	一八四	一八四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四七	一八三	一八三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四八	一八二	一八二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
四九	一八一	一八一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五〇	一八〇	一八〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五一	一七九	一七九〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五二	一七八	一七八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五三	一七七	一七七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五四	一七六	一七六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五五	一七五	一七五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五六	一七四	一七四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五七	一七三	一七三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五八	一七二	一七二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
五九	一七一	一七一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六〇	一七〇	一七〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六一	一六九	一六九〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六二	一六八	一六八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六三	一六七	一六七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六四	一六六	一六六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六五	一六五	一六五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六六	一六四	一六四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六七	一六三	一六三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六八	一六二	一六二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
六九	一六一	一六一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七〇	一六〇	一六〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七一	一五九	一五九〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七二	一五八	一五八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七三	一五七	一五七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七四	一五六	一五六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七五	一五五	一五五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七六	一五四	一五四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七七	一五三	一五三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七八	一五二	一五二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
七九	一五一	一五一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八〇	一五〇	一五〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八二	一四八	一四八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八三	一四七	一四七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八四	一四六	一四六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八五	一四五	一四五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八六	一四四	一四四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八七	一四三	一四三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八八	一四二	一四二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
八九	一四一	一四一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九〇	一四〇	一四〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九一	一三九	一三九〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九二	一三八	一三八〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九三	一三七	一三七〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九四	一三六	一三六〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九五	一三五	一三五〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九六	一三四	一三四〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九七	一三三	一三三〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九八	一三二	一三二〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
九九	一三一	一三一〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	
一〇〇	一三〇	一三〇〇.二	二二二	二二二二.二		二二二二.二	

備考 本表ハ大日本外匯貿易年表ニ依ル  
(三) 月別輸出額

目別	小		大		樽		樽	
	量	價	量	價	量	價	量	價
大正一三	四三〇〇	一四四三二	八一四八	三五九七六	一	九	一	九
一	三二八〇	九三三二	一六四五六	七〇二四六	一	一	一	一
二	一三四三〇	三六三三一	六一九五六	二七四七八	一	一	一	一
三	八一三〇	二三五九三	六四三三八	二六五四九	一	一	一	一
四	七四二〇	二〇五六七	四七八四〇	二〇五三六三	一	一	一	一
五	七〇八〇	二〇七二〇	六八一六六	三〇〇一四三	一	一	一	一
六	一〇四三一	三〇九九九	五七五七〇	二五八四九一	一	一	一	一
七	六七一	一七七八	一六九二	七〇九八四	一	一	一	一
八	二八四〇	一〇四三九	四〇三九八	一七六八五四	一	一	一	一
九	七二二〇	二一四七〇	三三九六四	一五七七七四	一	一	一	一
一〇	三二四〇	九三三三	二六〇八四	一〇九八五五	一	一	一	一
一一	三二四〇	九三三三	一八二二六	七七一〇一	一	一	一	一
一二	七〇六三三	二〇五七八二	四七九七九	一七六二六五	一	一	一	一
計	九四〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
大正一四	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
一	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
二	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
三	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
四	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
五	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
六	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
七	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
八	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
九	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
一〇	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
一一	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
一二	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一
計	九三〇〇	三〇八五	一八六六	四九六八六	一	一	一	一

目別	小		大		樽		樽	
	量	價	量	價	量	價	量	價
大正一五	六九八八	二〇七四一	三九〇二五	一八五二七五	一	一	一	一
一	八八二〇	二六二七七	四七五八〇	一六九八五二	一	一	一	一
二	九三三〇	一七五八四	一五五三九	七四四七五	一	一	一	一
三	七四三〇	二四六五三	二二五九一	一〇六八七四	一	一	一	一
四	二五八〇	八四六二	二二五四一	一〇六一五三	一	一	一	一
五	三二七六	一〇〇〇〇	二二五〇一	一〇三三三〇	一	一	一	一
六	四三五六	二〇四八八	三六七〇五	一六六七二〇	一	一	一	一
七	四二五六	一四〇〇二	一七六二〇	八一九五〇	一	一	一	一
八	四二五六	一四〇〇二	二二五二八	一〇六九一二	一	一	一	一
九	五五二一	一七八一九	四九一一九	二二五九九二	一	一	一	一
一〇	四九九〇	一五九七三	八〇三八三	三九六一〇九	一	一	一	一
一一	六三三〇	一四二二二	五八七〇八	二七五〇六五	一	一	一	一
一二	六〇二四	一六八九四	四三一一七	二〇八六四〇	一	一	一	一
一三	四六三三	一五五四七	四三一一七	二〇八六四〇	一	一	一	一
一四	八二一四	二七五四三	三三三三一	一六六七二五	一	一	一	一
一五	五九九〇	一九九一四	二七四七一	一三七一四四	一	一	一	一
一六	七〇八四	二六二六一	二五九四五	一三八一四四	一	一	一	一
一七	八〇一〇	二七三一〇	二七五四一	一三二〇七三	一	一	一	一
一八	七三三七二	二三四一四三	四八一九六一	二五〇五三三八	一	一	一	一
一九	四四一〇	一四一四七	一四二六一	六〇一八三	一	一	一	一
二〇	五四六二	一七六九七	二七一一九	一三二五三九	一	一	一	一
二一	七六一〇	二二七四八	五六〇三九	二五八一六八	一	一	一	一
二二	六八七〇	二〇九七七	八一九九三	三三七八五六	一	一	一	一
計	六八七〇	二〇九七七	八一九九三	三三七八五六	一	一	一	一



年次	支那		關東州		香港		英領印度		海峽殖民地		荷領印度		亞細亞		其他		合計
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
大正一	1,300	29,000	72	1,920	15	330	2	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1,491
二	1,400	31,300	85	2,240	18	350	3	150	2	200	2	200	2	200	2	200	1,612
三	1,760	36,300	95	2,475	29	630	3	150	3	300	3	300	3	300	3	300	1,821
四	1,810	39,100	105	2,715	38	840	4	200	4	400	4	400	4	400	4	400	1,952
五	2,690	55,700	130	3,010	44	970	5	250	5	500	5	500	5	500	5	500	2,845
六	2,270	51,200	127	2,805	54	1,188	6	300	6	600	6	600	6	600	6	600	2,439
七	2,580	57,300	110	2,420	67	1,479	7	350	7	700	7	700	7	700	7	700	2,717
八	2,450	53,500	75	1,875	57	1,251	8	400	8	800	8	800	8	800	8	800	2,586
九	1,750	38,700	96	2,400	55	1,210	9	450	9	900	9	900	9	900	9	900	1,955
一〇	1,510	33,400	71	1,585	55	1,210	11	550	11	1,100	11	1,100	11	1,100	11	1,100	1,776
一一	1,750	38,700	81	1,821	61	1,341	12	600	12	1,200	12	1,200	12	1,200	12	1,200	1,982
一二	1,840	40,700	72	1,584	61	1,341	12	600	12	1,200	12	1,200	12	1,200	12	1,200	2,013
合計	23,830	518,700	1,340	30,100	450	10,000	60	3,000	60	12,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	25,940

(八) 備考 一、本表ハ六日本外國貿易年表ニ依ル  
 (八) 樽 入

年次	支那		關東州		香港		英領印度		海峽殖民地		荷領印度		亞細亞		其他		合計
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
大正一	1,300	29,000	72	1,920	15	330	2	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1,491
二	1,400	31,300	85	2,240	18	350	3	150	2	200	2	200	2	200	2	200	1,612
三	1,760	36,300	95	2,475	29	630	3	150	3	300	3	300	3	300	3	300	1,821
四	1,810	39,100	105	2,715	38	840	4	200	4	400	4	400	4	400	4	400	1,952
五	2,690	55,700	130	3,010	44	970	5	250	5	500	5	500	5	500	5	500	2,845
六	2,270	51,200	127	2,805	54	1,188	6	300	6	600	6	600	6	600	6	600	2,439
七	2,580	57,300	110	2,420	67	1,479	7	350	7	700	7	700	7	700	7	700	2,717
八	2,450	53,500	75	1,875	57	1,251	8	400	8	800	8	800	8	800	8	800	2,586
九	1,750	38,700	96	2,400	55	1,210	9	450	9	900	9	900	9	900	9	900	1,955
一〇	1,510	33,400	71	1,585	55	1,210	11	550	11	1,100	11	1,100	11	1,100	11	1,100	1,776
一一	1,750	38,700	81	1,821	61	1,341	12	600	12	1,200	12	1,200	12	1,200	12	1,200	1,982
一二	1,840	40,700	72	1,584	61	1,341	12	600	12	1,200	12	1,200	12	1,200	12	1,200	2,013
合計	23,830	518,700	1,340	30,100	450	10,000	60	3,000	60	12,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	25,940

(五) 備考 一、本表ハ六日本外國貿易年表ニ依ル  
 (五) 仕出港別輸出額

年次	横		淡		神		戸		大		阪		門		司		合		計
	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	
大正一	三三九	一四七三五	五八三	二九二〇	一四	七四四	一	三	九四五	四四六八	一	九四五	一	三	一	三	一	三	四四六八
大正二	一四八	七五二〇	三〇四	一五〇四八	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一五〇
大正三	五三	二六六五	一五一	七六八三	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一五〇
大正四	一	四五	三九	一九九六	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一五〇
大正五	一〇	五二九	五	二六九	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一五〇

(八) 樽入  
備考 一本表八六日本外國貿易年表ニ依ル

年次	横		淡		神		戸		大		阪		門		司		合		計
	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	
昭和三	二八〇	一五六〇	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和四	六二九	一三六〇	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和五	九九九	一四四四	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和六	一四〇	一四四四	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和七	一三三九	一四二七八	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和八	五九九	一四二七八	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和九	八六九	一四〇二二	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一〇	不詳	不詳	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一一	不詳	不詳	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一二	一六五	七〇七	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一三	一〇二	四三四	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一四	四〇	一八二	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七
昭和一五	四六	二〇五	一五七	一五五	一四一	三七一	七〇	一四五	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一五七

年次	横		淡		神		戸		大		阪		門		司		其		他		計
	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	
大正一	一三五	二五七	一七	一七	一〇	二九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二五七	
大正二	一五四	三〇八	一七	一七	一〇	二九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二五七	
大正三	二四〇	四七二	一七	一七	一〇	二九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二五七	

(口) 大 備考 一本表八六日本外國貿易年表ニ依ル

年次	横		淡		神		戸		大		阪		門		司		其		他		計
	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	数	量	
昭和三	七二	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七二	
昭和四	一一〇	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一一〇	
昭和五	一五六	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一五六	
昭和六	二八六	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二八六	
昭和七	二八三	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二八三	
昭和八	二二六	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二二六	
昭和九	二二六	一四一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二二六	
昭和一〇	不詳	不詳	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	不詳	
昭和一一	不詳	不詳	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	不詳	
昭和一二	二五	二八	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二五	
昭和一三	二二	二八	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二二	

年次	数量	容量	換算	價	額
三					
二					
一					
四					
三					
二					
一					
〇					
九					
八					
七					
六					

備考 一本表ハ大日本外國貿易年表ニ依ル  
 (六)年別移出額  
 (イ)朝鮮へノ移出額

年次	数量	容量	換算	價	額
三					
二					
一					
四					
三					
二					
一					
〇					
九					
八					
七					
六					

年次	数量	容量	換算	價	額
三					
二					
一					
四					
三					
二					
一					
〇					
九					
八					
七					
六					
五					

備考 一本表ハ朝鮮貿易年表ニ依ル  
 (ロ)台湾へノ移出額

年次	数量	容量	換算	價	額
三					
二					
一					
四					
三					
二					
一					
〇					
九					
八					
七					
六					
五					





備考 一本表ハ朝鮮貿易月表ニ依ル  
(口) 台湾へノ移出額

月次	量	價	額	目次	量	價	額
大正一三	七五五	七五五	三七二・七	大正一四	四二一・八	二〇・五	二〇・五
一	一六六	一六六	八一三・八	一	三八七・二	一八・七	一八・七
二	三四九	三四九	一七二・四	二	一六四・四	八・一	八・一
三	四八三	四八三	二二七・八	三	六五六	三・五	三・五
四	九八二	九八二	四七二・九	四	七三・八	三・四	三・四
五	四二八	四二八	二〇五・七	五	三九三・四	一〇・八	一〇・八
六	一七五	一七五	八二・五	六	一九八・四	二九・五	二九・五
七	一七五	一七五	八二・五	七	六〇・五	一〇・八	一〇・八
八	一四五	一四五	六八・二	八	二九八・八	一〇・八	一〇・八
九	一三六	一三六	六四・三	九	六〇・五	二九・五	二九・五
一〇	一三六	一三六	六四・三	一〇	八三九・二	二七・七	二七・七
計	一三六	一三六	六四・三	計	四八五・二	二〇・五	二〇・五
大正一四	一	一	一	大正一五	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	二	一	一	一
三	一	一	一	三	一	一	一
四	一	一	一	四	一	一	一
五	一	一	一	五	一	一	一
六	一	一	一	六	一	一	一
七	一	一	一	七	一	一	一
八	一	一	一	八	一	一	一
九	一	一	一	九	一	一	一
計	一	一	一	計	一	一	一
昭和二年	一	一	一	昭和三年	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	二	一	一	一
三	一	一	一	三	一	一	一
四	一	一	一	四	一	一	一
五	一	一	一	五	一	一	一
六	一	一	一	六	一	一	一
七	一	一	一	七	一	一	一
八	一	一	一	八	一	一	一
九	一	一	一	九	一	一	一
計	一	一	一	計	一	一	一

備考 一本表ハ台湾貿易月表ニ依ル  
(ハ) 港別移出額

港別	大正十三年	大正十四年	昭和二年
神戶	九・七	七三・五	三三・九
名古屋	一〇・五	九二・四	三六・二
大阪	一〇・一	九二・四	三六・二
博多	七・五	一〇・三	二八・七
門司	三・五	一〇・三	二八・七
計	三〇・五	二六一	一五二

港別	大正十三年	大正十四年	昭和二年
神戶	九・七	七三・五	三三・九
名古屋	一〇・五	九二・四	三六・二
大阪	一〇・一	九二・四	三六・二
博多	七・五	一〇・三	二八・七
門司	三・五	一〇・三	二八・七
計	三〇・五	二六一	一五二

年次	東京	神戶	大阪	名古屋	京都	福岡	門司	長崎	其他	計
昭和	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122
大正	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132

備考 一本表ハ朝鮮貿易年表ニ依ル  
 口臺灣へ移出額

年次	東京	神戶	大阪	名古屋	京都	福岡	門司	長崎	其他	計
昭和	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142
大正	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152

年次	東京	神戶	大阪	名古屋	京都	福岡	門司	長崎	其他	計
昭和	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162
大正	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172

備考 一本表ハ台湾貿易年表ニ依ル  
 三麥酒ノ消費

年次	東京	神戶	大阪	名古屋	京都	福岡	門司	長崎	其他	計
昭和	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182
大正	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192



二、品質及品種

(1) 品質

麦酒用大麥ノ栽培ハ品質及位ナラザルヘカラスカ何ニ生育性良ニシテ收量多ク外見良好ナリト雖モ品質不良ナルモノハ其ノ目的ニ適セザルモノナリ蓋シテ麥芽ノ製造及麥酒醸造中原料大麥ノ内容物質中ニハ微妙ナル變化ヲ起スモノニシテ之ノ變化ノ如何ニ依リ製品麦酒ノ品質ニ重大ナル影響ヲ及ボスヲ以テナリ

イ、麦酒用大麥ノ其府スヘキ要件

一、麥芽力及麥芽勢ノ大ナルコト  
醸造成績ハ麥芽状況ノ良否ト正比例ヲナストマラセラル、モノニシテ麥酒原料タル大麥ノ第一要件ハ麥芽力及麥芽勢ノ大ナルコトナリ麥芽セサル粒ハ之ヲ麥芽ニ變セシムルコト不可能ナルノミナラス不麥芽粒ノ混在ハ麥芽ヲ腐敗セシムルコトアリ故ニ麥芽配合ハ少クモ九五%以上ニシテ實ニ麥芽ハ一十レヲ要ス作業ハ常ニ大量ニ行ハル、モノニシテ麥芽ノ不整ハ作業不便ナルノミナラス品質ヲ害スルヲ以テ麥芽勢八九%以上ナル事肝要ナリ麥芽勢トハ根氏十六度ノ湿度ニテ約三日間ノ麥芽成績ニシテ麥酒用トシテ八九%以上ナルコトヲ要ス

一、色澤ノ良好ナルコト

色澤ハ美麗ナル淡黄色ヲ呈シ且ツ光澤アルヲ可トス雨露ニカ、リ又ハ年月ヲ經テ色澤不良ニシテ暗褐色ヲ呈スルモノ等ハ麥芽不良ニシテ亦成品ノ品質ヲ低下セシムル恐アルヲ以テ最モ不良ナリ

一、乾燥良好ナルコト

乾燥ハ充分ニシテ而モ適當ナル水分ヲ含有セサルヘカラス乾燥不良ナルモノハ貯藏ノ際麥芽力ヲ害シ又蒸熱ヲ發シテ黴菌類ノ繁殖ヲ來シ香氣ヲ損フコトアリ乾燥程度ハ含水量一ニ%乃至一三%ニシテ外見ハ粒ノ表裏共ニ横ノ小皺ヲ生スル程度ニシテ縦ノ太皺アル程度ニテハ未ダ乾燥不充分ナルモノナリ

一、香氣アルコト

所謂大麥ノ香氣ヲ有シ不快ナル異氣アルモノハ不可ナリ香氣ハ製品麦酒ニ影響ヲ及ボスモノナルカ

又香氣セル異氣等アルモノハ完全ナル麥芽ヲ有セサルモノナリ

一、穀粒ノ重量大ナルコト

粒ハ豐滿充實シ穀皮薄シ粒重ハ大凡一件ノ重量三百粒以上タルコトヲ要ス三百粒以下ノ品ニハ充實ノ不良ナルモノノ調整不良ナルモノ等多クタメニ純、細身等ノ混入多ク一般ニ品質不良ナリ

一、純正度高キコト

純正度トハ快用ニ堪エサル細粒、蝕害粒、兩割粒、其ノ他ノ夾雜物ヲ除去シタル純良ナル麦粒ノ配合ノ意ニシテ其ノ配合ハ高キ程使用價值大ナリ

一、澱粉質ニ富ムコト

概シテ硝子質ナル大麥ハ蛋白質多ク粉狀質ナルモノハ澱粉質ニ富ミ麥酒醸造用トシテハ粉狀質タルヲ良トス、澱粉質多キモノハ麥芽製造上佳良ナルノミナラズ麥酒醸造上浸出物多ク麥酒ニ芳醇ナル香氣ト味ヲ附與スルモノ效果アリ、蛋白質多キモノハ麥酒ニ混濁ヲ生スル一事多キノ故矣アリ故ニ澱粉含量ハ六%乃至六五%ヲ可トシ蛋白質ハ一%乃至七%程度ヲ良トス

一、熟度適當ナルコト

過熟又ハ未熟ナルモノハ不可ナリ未熟ノモノハ澱粉質少ク麥芽力弱ク過熟ナルモノハ蛋白質多キ故矣アリ

ロ、品種

麦酒用大麥ハ右ノ如キ諸種ノ要件ニ適スルコト肝要ニシテ之ヲ為ニハ品種ノ適當ナルノミナラズ氣候、地味、土質、肥料、栽培法、收穫、調整等ニ特殊ノ注意ヲ要スルモノナリ、而シテ現在本邦内地ニ最モ適當ナリト認メラレ價ク栽培セラル、品種ハニ條種ノ「ゴールデンメロン」種ニシテ釋文夫ナル為例伏スルコト少ク能ク多肥ニ耐ヘ收量モ多ク品質亦優良ナリ各府縣ニ於テハ之ヲ純系分離ヲ行ヒ其ノ地方ニ好適スルモノヲ選出シ普及シツツアリ右ノ外北海道地方ニ於テハニ條種シユバレーヲ麦酒用トシテ栽培ヲ為シテ相當ノ成績ヲ奉ケツ、アルモ之ヲ各府縣ニ栽培スルトキハ「ゴールデンメロン」ニ比シ栽培稍困難ニシテ如フルニ收量少ク例伏シ易ク品質モ亦良好ナラス  
各主要地方ニ於テ栽培セラル、麦酒用大麥ノ品種及特性ヲ見ルニ次ノ如シハ各府縣農事試験場成

續)

種目	北海道	栃木	埼玉	東京	京都	佐賀
出品種	二角シユバレー	ゴールデンメロン一	ゴールデンメロン三	ゴールデンメロン一	ゴールデンメロン一	ゴールデンメロン
熟期	七月二日	五月一日	五月二日	五月二日	六月二日	四月三日
成期	八月一日	六月一日	六月一日	六月一日	六月二日	六月一日
稈長	三又三	三又二	四又八	三又七	三又七	四又七
葉長	二寸八	二寸三	二寸四	二寸七	二寸七	二寸七
葉位	多	一株九十三本	總數八四九本	一八〇	一八〇	一八〇
長	上	上	上	上	上	上
量	一石 三八三 三〇四	三石 一三二 三一	三石 五〇九 三〇二	最上 最多	二石 一四一 三一	二石 一四一 三一

本邦内地ニ於テハ右ノ外「ゴールデンメロン」ノ代用品トシテ在來種ノ中粒子甚大色澤佳良ナルモノヲ稀ニ輸入使用スルコトアルモ其ノ數量ハ極メア僅少ナリ其ノ主ナルモノトシテハ若玉縣地方ノ順川橋前京都地方ノ大六角等ナリ

三麥酒用大麥ノ耕種概要

本邦内地ニ於テ廣ク栽培セラル、「ゴールデンメロン」及「シユバレー」ハ前述ノ如キ特性ヲ有シ即チ分蘗力強ク稈長ク肥料ノ吸收力強大ニシテ連作ヲ忌ミ斑葉病ニ對シ比較的抵抗力強ク品種ナリヲ以テ土壤ハ排水良好ナル作土派キ乾燥適當ナル壤土又ハ砂質壤土或ハ粘質壤土ヲ可トシ肥培管理モ特殊ノ注意ヲ要スルコトハ勿論ナリ

特ニ窒素質肥料ノ過多ハ品質ヲ劣変スル虞ナシトセス又特ニ收穫調整ニハ周到ナル注意ヲ要ス

收穫ノ時期方法適當ナラスシテ早キニ過クハ穀粒ノ充實不充分ニシテ後細シ穀皮厚ク穀粉ノ量少ナクオアシメ時期遅キニ過クハ色澤ヲ損シ光澤ヲ失ヒ重量ヲ減少ス

殊ニ刈取後雨露ニ遭遇センカ品質ハ著シク劣変シ麥酒醸造用ニ耐ハサルモノニ生テ一年ノ勞苦ヲ水泡ニ歸セシムルコトナシトセス

是ヲ要スルニ麥酒用大麥ノ栽培ハ土質肥培管理ニ特殊ノ注意ヲ要スルト共ニ收穫、乾燥、調整ニハ周到ニ注意ヲナスコトヲ要ナリ

左ニ主要生産地方ニ於ケル耕種概要ヲ記載セントス

(1) 北海道

- 一 耕地 主トシテ畑作
- 一 選種 篩送ヲ行フ
- 一 整地 畦巾一丈五寸 畦中四寸乃至五寸 條播
- 一 施肥

肥料名	元	追	計	備	考
硫酸安					
磷灰					
過磷酸	五				
		八			
			一		
				追肥八一回	

- 一 播種 播種期五月上旬 播種量及管大併
- 一 管理 中耕除草ニ回 大月中、下旬
- 一 收穫及調整
- 收穫期 八月上中旬
- 收穫及調整方法 刈取ハ晴天ニ之ヲ行ヒ三四日圃場又ハ禾架ニテ乾燥シテ後脱粒ス

口 栃木 粟

脱粒ハ穂茹又ハ表打台ヲ用テ  
脱粒後唐箕ニテ充分ニ精選シ收納ス後晴天ニ、三日間乾燥ヲ行ヒ微若クハ以ニ  
入レ湿氣ヲ受ケナル標貯藏ス

一耕 地 主トシテ細作  
 一送 種 唐箕選後比重一三ノ塩水ニテ選別ヲナス  
 一整 地 畦幅二尺内外 蔴幅五寸乃至六寸 條播 耕起ハ深耕ヲナス  
 一施 肥

肥料名	元	追	計	備考
地 肥	一五〇・二〇		一五〇・二〇	
大豆 粕	七一一〇		七一一〇	
硫酸アンモニア	一五		一五	
過 燐 酸 石 灰		三五―四	三五―四	追肥ハ二回ニ分チ行フ
草 木 灰	六一〇		六一〇	
人 糞 尿	六〇		六〇	追肥ハ二回ニ分チ行フ

一播 種 播種期十月中旬 播種量及管三升乃至四升  
 一管 理

中耕 三回 十一月下旬 三月上旬 四月上旬  
 土入 二回 十二月上旬 三月上旬  
 踏 圧 三回 十二月下旬 二月上旬 三月上旬  
 除 草 中耕土入等ト同時ニ行フ

一收穫及調整  
 收穫時期 六月上旬  
 收穫及調整方法 晴天ノ日刈取リ圃場ニテ三四日間横ケ日乾入然ル後脱穀シ之ヲ蔴ニ横ケテ乾燥シ種加ニテ打チ粒ノ軸ヲ完全ニ分離シ粗篩、風選、唐箕選ニテ精選ス  
 調整ヲ終リタルモノハ更ニ蔴ニ横ケテ良ク乾燥ス  
 (川持 玉 懸)

一耕 地 主トシテ細作  
 一選 種 唐箕選、篩選後比重一三ノ塩水ヲ以テ選別ス後冷水盪湯浸法ヲ行フ  
 一整 地 畦幅二尺乃至二尺五寸 蔴幅五寸乃至六寸  
 一施 肥

肥料名	元	追	計	備考
堆 肥	二四〇		二四〇	
大豆 粕	一四〇		一四〇	
過 燐 酸 石 灰	七		七	
人 糞 尿	一		一	
硫酸加里(四八%)	一・二		一・二	若クハ硫酸一ニ貫

一播 種 播種期十月下旬乃至十一月上旬 播種量及管三升乃至四升  
 一管 理

中耕 四回 十二月中旬 三月上旬 三月下旬 四月上旬  
 土入 四回 十二月下旬 一月下旬 二月上旬 三月中旬  
 踏 圧 五回 一月中旬迄ニ行フ  
 除 草 三三回 発生ノ状況ニ依リ三四月ノ頃ニ行フ

一收穫及調整  
 收穫時期 六月中下旬  
 收穫及調整方法 刈取ハ晴天ヲ選ヒテ之ヲ行ヒ三日前其儘細ニ刈干ヲナス  
 脱穀ハ種加又ハ表打台ニテナシ調整ハ篩及唐箕ニテ精選シ後更ニ三日前莖ニ横ケテ充分乾燥ヲ行フ

(二) 京 都 府  
 一耕 地 主トシテ田作

一選種 唐箕選後比重一六ノ塩水ニテ選別ヲナシ麦奴其ノ他病蟲害豫防ノ為冷水温湯浸法ヲ行  
 一整理 畦幅四尺乃至三尺五寸南北畦トス 畦幅四寸乃至六寸一畦ニ條蒔

肥料名	元	追	肥	計	備	考
堆肥又ハ厩肥	三〇			三〇		
人糞	一〇		三〇	四〇		
過磷酸石灰	一〇			一〇		
草木灰	一五			一五		
計				一〇〇		
備					連肥八二回	

一播種 播種期十一月上旬 播種量天當三升  
 一管理 中耕追肥除草 三四 十二月中旬 二月上旬 三月上旬  
 土入 除草 一回 三月上旬(中耕ト合ハセ行フ)

一收穫及調整

收穫時期 六月中下旬

收穫及調整方法 刈取ハ畦六ニ行ヒ稈ノ儘畦畔ニ一兩日日乾シテ直チニ簡單ナル調整ヲ行フ

七月上旬水稻種秧後ノ餘畝ニ麥ニ日乾シ入念ニ足ニテ臼等ニ入レテ踏ミモ反穂軸ヲ落シ町等ニ調

製ヲナス

(本福岡縣)

一耕地 主トシテ田作

一選種 唐箕選ノ後比重一三ノ塩水ニテ選種シ尚更收穫時ノ目的ヲ以テ冷水温湯浸法又ハ風呂

湯浸法ヲ行フ

一整地 畦幅四尺乃至五尺 畦幅一尺一畦ニ條蒔

一施肥 例一

肥料名	元	追	肥	計	備	考
厩肥			三〇	三〇		
砒石			二〇	二〇		
硝石			二〇	二〇		
塩化砒			二〇	二〇		
石灰	一五			一五		
計				一〇〇		
備					石灰五升外五升及五升トシテ行フ	

例二

肥料名	元	追	肥	計	備	考
堆肥			二〇	二〇		
大豆餅			一五	一五		
過磷酸石灰			一〇	一〇		
草木灰	四〇			四〇		
計				一〇〇		

一播種 播種期 十一月上旬 播種量天當三升  
 一管理 中耕 除草 追肥 二回 一月中旬 三月上旬  
 鎮壓 土入 二回 二月上旬 二月下旬  
 秋土 二回 三月下旬 四月上旬

一收穫及調整

收穫時期 六月上中旬

收穫及調製方法 刈取ハ晴天ヲ選ヒテ之ヲ行ヒ得ノ儘畦畔ニ一日位日乾シ翌日圃場ニ於テ是ヲ敷キ打台、脱穀機等ニテ脱粒シ簡單ナル調製ヲナシテ後晴天ヲ選ヒテ一日乃至二日間日乾シテ麻袋又ハ以等ニ入レテ自家ニ貯藏ス

八月下旬出荷ノ直前ニ更ニ日乾シ芒穂軸等ヲ完全ニ落スタメ足踏又ハ脱穀機等ニテ入念ニ調製ヲナシ振装ハ以入トナス

四 契約栽培

麦酒用大麥ノ栽培ハ大部分契約栽培ニ依ルモノニシテ其ノ方法ハ生産者（契約當事者ハ普通郡農會又ハ其ノ他ノ團體）ト麦酒會社トノ間ニ於テ作付ニ先立テ豫メ翌年ノ收穫豫定數量ヲ推定シ取引數量價格決定方法等級ノ査定標準取引方法等ヲ契約スルモノナリ

(一) 道府縣別契約開始年次

(二) 大日本麦酒株式会社

年次	府	縣	年次	府	縣
明治九年	北海道	現在ノ本邦ビル會社ノ前身ト契約	大正七年	廣島、福岡	
明治十五年	京都		大正八年	東京	
明治十九年	千葉		大正十年	滋賀	
明治二十年	大隈		大正十一年	岡山、大分	
明治四十一年	栃木、埼玉、神奈川		大正十二年	新潟、愛媛、長崎	
明治四十二年	茨城		大正十三年	群馬、山梨、愛知	
大正元年	長野		大正十四年	岐阜、静岡、三重	
大正三年	山口		昭和二年	佐賀	

(四) 日本麦酒醸造株式会社

年次	府	縣	年次	府	縣
大正七年	愛知、栃木		大正十五年	山梨	
大正十三年	埼玉				

(ハ) 麒麟麦酒株式会社

年次	府	縣	年次	府	縣
明治四十五年	埼玉		大正十三年	栃木、宮城	
大正二年	千葉		大正十四年	群馬、奈良	
大正六年	茨城、神奈川				

(ニ) 櫻麦酒株式会社 (元帝國麦酒株式会社、昭和四年一月改稱)

年次	府	縣	年次	府	縣
大正五年	京都		大正九年	熊本	
大正八年	栃木		大正十一年	佐賀	
大正八年	茨城				

(ホ) 其ノ他

年次	府	縣	年次	府	縣
大正十五年	茨城 (日英醸造株式会社 (株式會社壽屋廣次))		大正十三年	京都	(壽屋山崎ウヰスキー工場)
大正十二年	京都 (麦酒原料株式会社)				

(二) 契約事項

各會社トモ大体ニ於テ同様ナリ左ニ契約書ノ一例ヲ掲ク



武  
印  
紙

委任状

私共儀

何郡農會ニ在勤スル何某ヲ代理人ト定メ左ノ権限ニ屬スル事項ヲ委任致候爲後日委任状仍テ如件  
一昭和三年度生産ノ麦酒原料用大麦ヲ大日本麦酒株式会社大阪支店吹田五場へ納入ニ付之ヲ賣買矣  
約締結並物件引渡、代金受領其他賣買契約履行ニ附隨スル一切ノ件  
ニ代理人何郡農會ニ在勤者ヲササハルニ至リタルトキ又ハ事故アリタルトキハ複代理人送任ノ件  
昭和 年 月 日

昭 府 郡 村 大字 番地  
耕作 者 連 記

約定書

昭 府 郡 農會

(以

本般大日本麦酒株式会社大阪支店(以下甲ト稱ス)ト  
下乙ト稱ス)トノ間ニ麦酒醸造用大麦ヲ賣買スルニ付約定スル條項左ノ如シ  
第一條 乙ハ其ノ組合地域内ニ於テ昭和二年中ニ播種シ翌年ニ至リ收穫シタル麦酒醸造用ニ適スル  
「ゴールデンメロン」種大麦 石ヲ昭和三年八月迄ニ甲ニ賣渡スヘキコトヲ約定ス  
乙ニ於テ若シ其ノ種類ヲ変更セントスルトキハ豫メ甲ニ申出ア其ノ承認ヲ受クヘキモノトス  
第二條 前條ノ石數ニ對シ壹割以内ノ増量ハ乙ノ請求ニヨリ甲ハ之ヲ購入ス可ク天候其ノ他不可抗  
約原因ニヨリ收穫石數カ前條ノ石數ニ充タサル場合ヲ除クノ外乙ハ約定石數ヲ減スルコトヲ得サ  
ルモノトス  
第三條 購入大麦ノ受渡場所ハ大阪府三島郡吹田町大日本麦酒株式会社吹田五場橋内トシ積込驛迄  
ノ運賃及諸掛費ハ總テ乙ノ負担トス  
第四條 甲カ乙ヨリ購入スヘキ價格ハ左ノ方法ニヨリ之ヲ定ム  
大阪時事新報、大阪中外商業新報兩新聞紙上昭和三年八月一日ヨリ全十五日迄ノ物價表庸中大麦

壹石ノ平均相場ヲ標準トシ之ニ左ノ割増ヲ附ス

三等品 壹石(正味三十貫匁)

庸中大麦壹石ノ平均相場ニ 貳割貳分増

貳等品 全 全 貳割四分増

壹等品 全 全 貳割六分増

外ニ獎勵監督審查受渡等ニ要スル費用トシテ壹石ニ付標準價格ノ百分ノ壹ヲ支拂フコト  
(右百分ノ一八十五年、二年、本年ハ特ニ貳拾錢ヲ支拂フコトヲ約セリ)

積込驛吹田間ノ運賃ハ會社ノ負担トス

第五條 大麦一俵ノ容量ハ正味拾貳貫匁又ハ拾五貫匁トス受渡ノ際壹部ノ拔取ヲナシ其ノ容量ヲ決  
定スルコトアルヘシ

第六條 乙ハ收穫調製後運搬ナク各栽培者ニツキ見本品貳合宛ヲ集メ番号石數栽培地名栽培者姓名  
ヲ附シ別ニ之ヲ記入シタル帳簿ヲ添ヘ甲ニ送附スヘシ甲ハ右ノ見本品ニツキ調査ヲナシタル上便  
宜ノ場所ニ於テ實地検査ヲナシ等級ヲ査定ス

第七條 等級ノ査定ハ左ノ標準ニ基キ甲等ヲ之ヲ担任ス

- 一 重量 壹斗參百匁以上ヲ合格品トス
  - 一 色澤 純正ニシテ雨露ニ曝ケレ若クハ蒸熟ノ爲ニ変色セサルモノヲ合格品トス
  - 一 粒形 完全ニシテ未熟、腹切、腐敗、萌芽、赤黒、齜害等ヲ認メサルモノヲ合格品トス
  - 一 乾燥 充分ニシテ貯藏中変質ノ虞ナク事
  - 一 発芽割合 百粒中發芽スルモノ九拾粒ニ達セサルモノハ不合格品トス
  - 一 純正 他ノ穀粒、麥種及土砂ヲ混入セス調製充分ナルコト
- 其ノ他醸造用原料ニ適セサルモノハ採用セス  
見本品ト甚タシク相違セルモノ並耕作地一人ニテ壹反或ニ連セサルモノハ品質ニ優テス不適合品

トスルコトアルヘシ  
 第八條 乙八第六條規定ノ實地検査以前ニ栽培者ヲシテ完全ニ依裝セシメ横繩ハ五ヶ所結ビトシ必  
 ス縦繩ヲ用ヒ太繩ニテ四方ニ重掛横繩引掛トナシメ置クモノトス  
 依裝不完全ナルモノニハ品質ノ如何ニ依ラズ買受ケス  
 右約定ノ證トシテ本書式通フ作成シ各一通ヲ分有ス  
 昭和 年 月 日 大日本麦酒株式会社大阪支店

(三) 生産者側ノ契約當事者

- 一 縣 農 會
- 一 郡 農 會
- 一 町 村 農 會
- 一 個 人

一 麥酒麥耕作組合其他  
 北海道 長野 新潟 山梨 京都 愛媛 徳島 千葉 大坂 岡山 新潟 宮城  
 宮城 茨城 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 静岡 愛知 三重 京都 奈良 岡山 廣島 山口 福岡 佐賀 熊本 新潟 山梨 京都 愛媛

(四) 道府縣及各級農會ノ契約栽培ニ對スル關係 (昭和二年現在)

- (イ) 概 括
- 一 府 縣ノ關係スルモノ
- 一 府 縣農會ト共ニ契約ニ關スル斡旋仲介獎勵ヲナス
- 一 縣農會ヘ指定補助ヲナシ斡旋獎勵ヲナス
- 一 府 縣農會ヲ郡市町村農會ト共ニ關係スルモノ
- 一 契約協議會 品質査定會等其ノ他全般ニ亘ル各種 斡旋 仲介 獎勵ヲナス
- (ロ) 左ノ外獎勵金ノ交付ヲナスモノ

千葉 大坂 岡山 新潟 宮城  
 宮城  
 宮城 千葉 茨城 三重 大坂 佐賀 長崎 大分 東京 神奈川 栃木 岐阜 宮城

(三) 査定費一石ニツキ一〇銭 (昭和四年三月) 迄ヲ徵收シ縣及郡農會ノ受渡費ニ充ツ  
 一 町 村 農 會ノ關係スルモノ  
 一 府 縣 郡 市 町 村 農 會ノ關係セヌモノ  
 (ロ) 各 道 府 縣 別  
 北海 道  
 一 ナシ  
 宮 城 縣  
 一 縣 農 會ニ於テハ (縣ハ縣農會ヘ指定補助) 右獎勵ノタメ大正十三年度ヨリ獎勵金ヲ交付シ (昭和二年年度限リ) 又契約協議會並査定會其ノ他全般ニ亘ル各種ノ交渉ハ縣農會ニ於テ生産獎勵等ハ各級農會ニ於テ之ニ當リツ、アリ  
 茨 城 縣  
 一 縣 農 會ハ仲介ノ勞ヲ取リ郡農會力契約當事者ノ主体トナル而シテ郡農會ハ各町村農會ヲ通シテ各栽培者並其ノ栽培及別等ヲ定ム  
 枋 木 縣  
 一 縣 農 會ハ鐵路西者間ニアリ契約及販賣ニ關スル一切ノ斡旋ヲナス  
 群 馬 縣  
 一 多 野 郡 農 會ニ於テハ直接會社ト契約ヲ結ビ之ヲ販賣ノ斡旋ニ努メツ、アリ  
 一 其ノ他關係郡農會ニ於テハ直接會社ト契約ヲ結ハサルモ栽培上ノ指導及販賣ノ斡旋ヲナセリ  
 埼 玉 縣  
 一 縣 農 會ハ其ノ間斡旋ヲ行ヒ査定費一石拾銭 (昭和四年ヨリ壹拾五銭) ヲ徵シ縣農會及郡農會ニ於ケル販賣受渡費ニ充ツ  
 一 生産 受渡ハ郡市町村農會主トシテ之ニ當リ町村農會及実行團體 縣及郡農會補助及獎勵ニ

ヨリ採種圃ヲ設置シ品種ノ純正ヲ期ス

千葉縣 一 縣及縣農會ハ契約協議會及見本査定會ニ立會シ種々幹旋ニ努ム

東京府 一 有農會中幹旋ノ勞ヲ採リ會社トノ連絡交換ノ交成其ノ他契約栽培等ニ對シ主トシテ盡カス  
一 郡農會契約當事者タリ有農會ト栽培者トノ中間ニアリア幹旋盡カス  
一 町村農會略右ニ企シ

神奈川縣 一 契約ニ當リテハ縣郡農會立會ヒノ上會社ト出資石數ノ契約ヲナシ郡農會ハ右ニ基キ管内町村農  
會主任者ノ協議會ヲ同キ栽培ノ方針ヲ定メ各町村毎ニ耕作者台帳ノ調製ヲナシ種子ノ快溢其ノ  
他一切ノ指導ヲナス

新潟縣 一 縣契約當事者間ノ紹介ヲナス  
一 郡農會ハ見本ノ送付出售ノ幹旋ヲナス

山梨縣 一 ナシ

長野縣 一 ナシ

岐阜縣 一 各級農會連帶契約栽培及取引ノ幹旋ヲナス

静岡縣 一 縣及縣農會ハ更ニ關係セズ  
一 郡農會ハ前項ノ通り契約當事者トシテ義務ヲ履ヒ町村農會ト聯絡シテ種子ノ配給・栽培・乾燥  
調査ノ指導引渡及代金收授ノ幹旋等ヲ行フ

愛知縣 一 郡農會ニ於テ契約ヲ為スヲ以テ町村農會ニ對シ郡農會ハ栽培ノ指導奨励ヲナス

三重縣 一 縣農會ニ於テ仲介幹旋シ郡農會ニ於テハ生産者ヲ加入セシメ契約栽培ス

滋賀縣 一 ナシ

京都府 一 有及有農會ハ關係ナシ只本府穀物検査ニ依ル麥ノ品質及等級等ニ關係深キヲ以テ各關係麥酒會  
社ヨリ各一名ヲ送ヒ本府標準表査定會委員ヲ囑託セリ

一 郡農會ニ於テハ會社トノ契約ノ衝ニ當リ或ハ中間ノ幹旋ヲナシ販賣上在々被ルヘキ不利益ヲ除  
キ有利ニ販賣スヘク努力シ價格ノ引上ケ其ノ他時期ニ應シテ活動スル外一方品質ノ向上ヲ計ル  
為種子更新ノ目的ヲ以テ採種圃ヲ經營スル等其ノ栽培方面ニモ努メツ、アリ

一 町村農會ハ郡農會ノ指導ノ下ニ個人ノ委任ニヨリ或ハ契約ニ基イテ直接會社ト契約シ或ハ郡農  
會ヲ契約當事者タル場合ニハ其ノ中継トナリテ幹旋スル外個人ヲ指導シ栽培方面ニ於テモ其ノ  
品質向上ニ努メツ、アリ

大阪府 一 三島郡契約栽培地ニ於ケル町村農會  
一 契約栽培ノ代表者トナルコト  
一 検査ノ立會  
一 三島郡農會  
一 販賣價格ノ協定

大阪府

一 三島郡契約栽培地ニ於ケル町村農會

一 契約栽培ノ代表者トナルコト

一 検査ノ立會

一 三島郡農會

一 販賣價格ノ協定

四 検査ノ立會

(ハ)其ノ他契約栽培ニ関スル總テノ事項ノ斡旋

一 契約栽培ニ関スル總テノ事項ハ三島郡農會ヲ介シテ行ハル、モノナリ

奈良縣

一 北葛城郡農會ハ京都府南桑田郡農會ト約定シ北葛城郡農會ハ更ニ郡内実行組合長ト契約シテ契

岡山縣

一 縣ハ契約ノ仲立

二 町村農會、契約ノ當事者ニアラサルモ契約栽培ノ勧誘、種子ノ配付斡旋、栽培指導受渡、代金

廣島縣

一 縣及縣農會、該管ナシ

山口縣

一 郡農會、村農會、賣買契約ノ締結物件ノ引渡代金ノ受領

徳島縣

一 該管事項ナシ

愛媛縣

一 町村農會以外ニハ関係ナシ

福岡縣

一 契約ハ郡市農會ト會社トノ直接交渉ニヨリ締結セラル、モノニシテ縣及縣農會ハ関係セス

佐賀縣

一 契約ノ當事者ハ郡農會ニシテ町村農會ヲシテ適地ヲ選擇セシメ農事實行組合ヲシア固地的ニ栽培セシムルコトトシ縣農會ハ契約取引其ノ他ニツキ斡旋ヲナスコト、シ尙大正十二年ヨリ全十

長崎縣

五年迄四ヶ年間ハ糖造用麦酒大麦作共進會ヲ所催シテ品質ノ向上並栽培普通ノ獎勵ヲアシタリ

熊本縣

一 縣農會ハ契約者トシテ栽培ノ獎勵及取引ニ從事シ郡内町村農會ハ栽培ノ指導獎勵ニ當ル

大分縣

一 契約ノ締結並栽培獎勵取引上ニ関スル斡旋等總テ縣農會共ノ衝ニ當リ郡町村農會亦協力シ實施セルモノニシテ縣ニ於テハ何等關係ナシ

(五)道府縣ノ契約栽培ニ對スル意見

(イ)總括

一 取賣價格引上ニ関スル事項

一 割増金ハ少グトモ五―七割程度ニ引上クルコト

現在ノ如ク普通大麦ニ比シ僅ニ二―三割程度ニ

テハ到底生産者ハ引合ハス

一 取賣價格ハ其ノ生産地方ニ最多ク栽培セラル、

東ア標準トシテ決定セラル、標準約ナスコト例

ハハ小麦ノ栽培盛ナル地方ニハ小麦ヲ標準トナ

スヘシ

一 最低保證價格ヲ設定スルコト

二 検査不合格品ニ関スル事項

一 取引検査ニ不合格トナリタルモノニ付キテハ麦酒會社ハ全ノ額ミス為ニ生産者ハ之力処分ニ甚

岐阜、大分、岡山、山口、福岡

茨城、埼玉、千葉、山梨、岐阜、静岡、京都、佐賀、福岡

岐阜、埼玉、東京、滋賀、京華、熊本

群馬、埼玉、東京、神奈川、京都、福岡、熊本

シク不利益ヲ被ル現狀ニ在リ不<sub>レ</sub>合格品ト雖モ必<sub>ス</sub>幾分ノ割引ヲ以テ取引ヲ爲スカ又ハ栽培補償等ノ方法ヲ講セラレタキコト

ハ検査等級格付等ニ関スル事項

- 一 格付ハ縣ノ検査規則ニヨル等級ヲ以テ算定ノ基準トセラレタキコト
- 一 格付決定ニ當リテハ農會又ハ縣ノ穀物検査員ヲ立會協議セシムヘキコト
- 一 生産検査ハ農會ヲシテ施行セシムルコト
- 一 標準價格決定ノ時期方法ハ現行ニテハ不<sub>レ</sub>當ナリ適當ノ時期ニ変更セラレタシ現行ノ時期ハ麦價ノ最安キ時期ナリ

ニ其ノ他ノ事項

- 一 病蟲害防除ニ對シテ農會ヨリノ相當ノ助成ヲナスコト
- 一 肥料代金トシテ出荷應定數量ニ對シ相當金額ヲ前渡スルコト
- 一 農會ヨリ麥ノ原種ヲ無償配付スルコト
- 一 契約ハ苗人直接ナラス系統農會ト農會トノ間ニ行ハシムルコト
- 一 品種改良ヲ行ヒ優良品種ノ栽培ヲナスコト
- 一 技術ノ向上ト收穫調整ノ改善ヲ計リ產麥ヲ改良ナラシムルコト

群馬、茨城

長野、廣島、福岡

滋賀、栃木、靜岡、岡山

長野

神奈川

長野

北海道、岐阜

栃木、埼玉、愛媛、長崎

北海道

一 現在ニ於テハ契約者間ニ於テ何等紛争ヲ生シタルコトナク圓滑ニ行ハレツ、コレトモ將來ハ生産者ノ供給團體ヲ作りテ共同販賣ノ制度ヲシムルノ要アルヘシ

宮城縣

一 特記スヘキ事項ナシ

茨城縣

一 價格ハ對照作物タル小麦ヲ標準トシテ價格ヲ決定シ及當收入ニ於テ小麦ヨリ下ラサル程度ニ取引スル樣改善スルコト

栃木縣

一 品種及耕作上ノ改良ヲ要スルト同時ニ一方價格ノ決定方法ノ改善ヲ必要ト認ム

群馬縣

一 契約栽培ニ當ル大麦(ゴールデンメロン種)ノ受渡ノ場合ノ格付ハ群馬縣穀物検査規則ニヨル等級ヲ以テ算定ノ基準トセラレタキコト

一 美酒麦ハ従来等外品ニヨリテハ絕對ニ引取ラレサリシモ責任感、強キ契約栽培者ノ運搬並<sup>上</sup>出荷品等ニ對シテ受クル不利不便少カラス極テ出荷品ニ對シテハ相應價格ヲ以テ必<sub>ス</sub>引取ラレタキコト

埼玉縣

一 品質優良、早熟、耐病性(殊ニ立枯病)強キ強稈多收ノ品種育成並普及

一 現在ノ美酒麦及當收量熟期等ノ關係上、價格ヲ小麦程度ニ引上クルニ非ラサレハ小麦作ニ変更サル、ノ傾向ナリ

一 受渡ノ場合ニ生スル不合格品ノ処分方法ヲ講シ可成ク相當價格ヲ以テ美酒會社ニ於テ引取ルカ然ラサレハ或程度ノ補償又ハ他ニ有利ナル処分方法ヲ講スルノ要アリ

千葉縣

東京府

一 従来不台格品ニ對シ會社ハ如何ナル價格ト雖モ之ヲ購入セス栽培者ハ飼料其他ニ用ヒ極メテ不利不經濟ナル立場ニアリ將來新クノ如キモノニ對シ相當考慮ヲ要ス可ト認ム  
一 會社カ契約ヲナス當初(栽培者ノ作付以前タルヘシ)豫定價格及豫定數量ヲ示シ實際ノ場合之ト大差ナキ交換ヲナス(農會等ニ於テ充分監督指導ノ要ハ之アリ)ニ非ラサレハ將來酒用大麥ノ栽培ハ一種ノ技術的ニ墜リ常ニ變動甚シキ狀態トナル可シ特ニ本府ノ如キ然リト考ヘラレ、ヲ以テ注意ヲ要ス

神奈川縣

一 契約受渡ニ際シ不台格品ノ処分ニ甚シク困難ヲ感シツアルヲ以テ之カ処分ヲ契約會社ニ於テ普通大麥價格ヲ以テ同時ニ買受シル様ニナスコト  
一 麥酒用大麥栽培契約ト同時ニ肥料代金トシテ出荷豫定數ニ對シ相當金額ヲ前渡シスルコト

山梨縣

一 最近本縣ノ大麥栽培及別ノ趨勢ヲ見ルニ大正七年(一〇〇)トスレハ五ヶ年後ノ十二年(九〇)更ニ十ヶ年後ノ昭和二年(七一一)ニ下レリ右ハ主トシテ大麥價格下落シ利益薄キカタメノ減少ナルヲ以テビール栽培ニ對シテハ取引價格ヲ小麥ノ市價ニ匹敵スル程度ノ割増金ヲ増額セハ契約栽培及別モ増加シ自然品價優良ノ生産ニモ一層努力スルコト、ナルヘシ

長野縣

一 會社ヨリ麥酒用麥原種ノ無償配付ヲナスコト  
一 麥酒用麥ノ等級決定ニ當リ栽培地ノ農會ト會社派遣技術員ト合議ノ上決定スルコト  
一 麥酒用麥ノ着目防除ニ對シ會社ヨリ相當ノ助成ヲナスコト

岐阜縣

一 麥酒用麥ノ契約栽培上主要ナル莫ハ價格ノ算定ノ契約條件タル普通麥ノ價格ヲ標準トスルカ小麥

小麥ノ價格ヲ標準トスルカノ莫及割増金合ヲ裁制トスルカ及最低保証價格ヲ如何ナル程度ニ決定スルカノ三莫ナリ

本縣農會ノ調査シタル如クニヨレハ麥酒用麥ハ最低ノ標準ニヨリ一石ノ生産費約二十圓ヲ要ス然レ共現今大麥小麥何レモ生産費不償ノ折柄ナルヲ以テ生産費ノ積ア程度ノ要求ハ市價トノ關係上困難ナル事情ナルヘシト思考スルモ現今ノ狀態ニ依リ考フレハ普通大麥ハ主要食糧ノ一ニ加ヘラレツ、アルモ其ノ主ナル需要ハ飼料方面ニシテ米價ノ高低ハ必スシモ追従セス常ニ安價ニアリ就中麥酒用麥ハ五穀原料トシ或ル一定量ハ市價並生産費問題ニ關セス入用ニシテ栽培セシメ供給ヲセシムルヲ要スルモノナレハ相當有利ナル條件ヲ附セサルヘカラス

目下ノ麥類中獨リ小麥ハ食糧穀物トシテ主要ナル地位ヲ占メツアリ且ツ五穀原料トシテ供給セラル、莫麥酒用麥ニ類似スル故ニ割増金トモ同一程度ノ價格ニ算定セラル、條件ヲ具備スルコトヲ必要ト信ス

故ニ今日ノ財界ノ狀態ニ於テ石代、十三圓ヲ保證價格トシ普通麥ノ價格ノ五割以上七割増シノ條件ヲ定ムルニ於テ始メテ麥酒用麥ノ栽培ヲ安定セシムルモノタルヲ思考ス故ニ將來ノ契約栽培ニ當リ此ノ莫ヲ改善スルノ要切ナリ尚麥酒用麥ノ契約栽培ハ個人契約等ハ之ヲ行ハス系統農會ニ於テ之ヲ行フコトノ方針ヲ以テ終始スルヲ要ス此ノ莫本縣ニ於テハ現在ニ於テ差支ナシ

静岡縣

一 價格決定ノ基準トナルヘキ普通大麥相場ハ名古屋ニ於ケル地廻リ相場ト生産地方ニ於ケル地廻相場トノ間ニ相當高低アル場合勘カヲサレニ依リ之ヲ生産地方ニ於ケル地廻相場ニ改ムルノ要アリト認ム

一 價格決定ノ時期ニ於テモ會社側ハ收穫時期ノ相場ニヨリモ該時期ハ概シテ價格ノ最安キヲ帶トスルヲ以テ他ノ時期ニ改ムルコトヲ得ハ生産者ノ利益多シ

愛知縣

一 販賣價格ノ決定  
一 不台格品ノ処分

三重縣

一特記ス可キ事項ナシ

滋賀縣

一最低補償額ノ制ヲ採リ生産者ニ栽培上ノ安定ヲ與フルコト(少クトモニ割高)

一各級農會才契約ニ介在シ生産検査ハ縣會ノ手ニテ為スコト

京都府

一契約栽培ヲ始メタル當初ニ於テハ六日本麦酒會社ノ獨占ニ屬シ殊ニ價格ノ矣ニ於テハ會社ノ自由ニ歸シ生産品ノ検査モ會社ヨリ出張シテ行フ等生産者ノ被ル可キ不利益多カリシモ大正四年穀物検査施行後後半ノ弊ハ除カレタリト雖モ價格ノ矣ニ於テ尚生産者ノ不利益尠ナカラザリキ其ノ後農會ノ直接會社ト契約シ或ハ其ノ斡旋ヲナシ一方栽培方面ニ於テ生産者ヲ督勵シ品質ノ向上ニ努カセシ結果幾分ノ效果認メラレタリト雖モ麦酒用大麥ハ肥料ノ吸收力強ク地方ノ減耗甚シキヲ以テ多量ノ施肥ヲ要シ從テ廉價ナル糞尿ノ得ラル、都會地附近ハ栽培シテ經濟上稍ク有利ナラムモ然ラサル地方ニ於テハ多量ノ肥料代ヲ要スルノミナラス尚芒長ハ調製ニ手數ヲ多ク要スルヲ以テ益々生産費ヲ高メ經營上利益率ヲ近近年栽培面積モ減少スルニ至レリ而シテ從來ノ如ク消費量少ク從テ栽培面積モ漸次減少スル普通大麥ノ價格ヲ標準トシテ取引價格ヲ決定スルハ時勢ニ適應セサルモノト認ムヘク會社側ニ利スル欠アランモ生産者ノ不利益蓋シ大ナルヘシ之ヲ對策トシテハ各級農會互ニ協力シ標準價格ノ基礎ヲ小麦(或ハ裸麥ニ標準ヲ置クモノナラン)ノ價格ニ置キ價格ノ引上ケニ努カシ最低價格ノ協定ヲナシ他面金肥ノ使用ヲ節約シ自家生産肥料ノ使用ヲ増加シ品種及栽培法ノ改良ニ努ムルハ一方策タルヘシ近時最低價格ノ協定ヲ望ム聲多ク郡農會ニ於テモ之ヲ協定ア會社ニ交渉中ノモノアリ各級農會互ニ連絡シテ價格引上ニ努カス可ク運動スル等相當之方對策ヲ講シツ、アリ尚本府産麥ノ聲價維持並向上ノ為併セテ右ニ述ヘタル價格ノ引上ヲ並維持ノ目的ヲ以テ統制アル取費機關ヲ設ケ各級農會ト連絡シ生産品並價格ノ統一ヲ計リ等外品ニ對スル原價制取ヲ設グル等府末改善ヲ要スル事項ナレハシ

大阪府

一契約價格ヲ高ムレコト

大正十四年迄ハ麦酒用大麥ハ普通大麥ノ四割増ヲ以テ契約價格トセリ然ルニ近時一般麥價ノ下落ニ伴ヒ割増金モ著シク減シ現在ニ於テハ二割五歩トナレリ

事情如斯契約價格ノ下落ニ伴ヒ栽培者ノ利益減殺ナレ栽培面積亦著シク減シツ、アレハ是れ其從前運契約價格ヲ引上クルノ要切ナリト認ム

奈良縣

一僅ガ一ヶ年ノ經驗ナレヲ以テ契約上ニ特ニ意見ナキモ一ヶ年限リニシテ栽培ヲ廢止シタルハ左ノ理由ニ依ル

(一)收穫時期遅レ水稻挿秧ニ多少支障ヲ來スコト(本縣ハ池水灌漑多キヲ以テ一定時期迄ニ收穫終了スルヲ要スルニヨル)

(二)稈長キニ過キ倒伏ノ易ク收納ニ多クノ労カヲ要スルコト

(三)脱穀作業不慣ノ為多ク労カヲ要シ尙多忙ナル時期ニ「磨キ」ヲ為ササル可カラナル等ニヨリ農家ノ嫌忌スルコト

岡山縣

一契約價格ヲ引上クルコト

近時小麦ハ相當ノ價格ヲ保持セリト雖モ大麥ハ年々下落セルニヨリ農家ハ不利ナル大麥ノ栽培ヲ廢シ小麦其ノ他有利ノ知作ニ轉シツツアリ殊ニ麦酒用大麥ゴールデンメロン種ハ在来大麥ニ比シ極メテ長キヲ以テ脱穀調整ニ手數ヲ要シ且特殊ノ用途關係ニ依リ乾燥調整等モ殊更注意ヲ拂ハサル可カラサルヲ以テ相當有利ニ販賣シ得サレハ之ヲ栽培ヲ避クル傾向アリ故ニ會社ニ於テモ此ノ矣ニ鑑ミ割増金其ノ他ノ方法ニヨリ普通大麥ニ比シ有利ニ購入セリト雖モ之ヲ小麦ノ栽培ニ比スレハ尙甚々不利益ナリ故ニ前表ノ如ク年々契約石數ノ減少ヲ來セリ故ニ今後割増金ヲ増加スルカ又ハ標準價格ノ決定方法ヲ変更シ價格ノ引上ケヲ行フニアラサレハ本縣ニ於テハ今後契約栽培ヲ行フ者ナキニ至ル實狀ナリ而シテ標準價格ノ決定ハ約定書ニ記

載セル如ク八月一日ヨリ十五日迄ノ新聞紙掲載ノ相場ナレモ此ノ期ハ表ノ出廻期ニテ一年中概シテ最安キ時期ナルニヨリ多少ノ割増金アレモ之ヲ此ノ時期ニ販賣スルモノニ比シテ却テ安キ場合アリ故ニ何レカノ方法ニヨリ履格ノ引上ヲ為スコト必要ナリ

廣島縣

一特記スヘキコトナシ然レトモ現在ノ履格決定方法ハ單ニ會社ノ定ムル儘ナレモ將來ハ縣農會等ニ於テ生産者ノ意圖ヲ徴シ會社ト接續シ履格ノ決定ヲ為スハ販賣上有利ナリト認ム

山口縣

一割増金ヲ五割増位ニ増加セシムルノ要アリト認メラル

徳島縣

一関係事項ナシ

愛媛縣

一將來契約耕作面積ヲ擴張シ品種ノ改良ヲ行ヒ優良品種ノ栽培ヲ行ハントス

香川縣

一履格引上

一等級検査ニハ穀物検査員モ立會セシムルコト

一割増金ヲ増加セシムルコト

一不合格品ヲ多ク出サナルコト

佐賀縣

一取引履格ハ其ノ地方ニ最多ク栽培セラル、去ア標準トシ相産有利ニ取引セラル、據契約ヲ為スニト例ヘハ小麦ノ栽培盛ナル地方ハ小麦ヲ標準トスル也如シ

長崎縣

一本縣ニ於ケル契約栽培ハ大正十二年ニ始リホタ當業者カ表酒炭栽培ニ對スル經驗者キ為優良品ノ産出少ク其ノ取引表ノ多クハ三等品ナルヲ以テ將來栽培技術ノ向上ト收穫調整ノ改善ニヨリ産量ノ改良ヲ圖ルヲ急務ナリト認ム

熊本縣

一從來表酒會社ノ取引検査ニ於テ不合格トナリタルモノハ之カ処分ニ甚シク不利ニシテ表酒會社ハ之ヲ全ク顧ミス為ニ當業者ハ一度不合格ヲ生産セシ方其ノ翌年ハ栽培ヲ中止スル如キ状態ナリ

故ニ栽培補償トシテ反當費何ヤア支給スルカ又ハ不合格品ト雖モ裁割安カア栽培ノ當初ヨリ明瞭ニシテ取引スルノ法ヲ講スルヲ要ス

大分縣

一ナシ



附 録

一 麦酒ノ醸造

(一) 醸造業ノ沿革

麦酒ノ起源ハ極メテ古ク西曆ニ千年前ニ初マリ埃及時代ニ既ニ醸造場ノ存在セシコト明カニシテ埃及ノ神聖「オシリス」ヲ以テ麦酒醸造ノ祖ト稱スルモノアリ而シテ埃及文化ト共ニ麦酒醸造法モ亦希臘人ニアケタルモノナルヘク其ノ後「ゴール」人「スペイン」人等ニヨリ更ニ「ブリタン」人「ゲルマン」人等是ヲ傳習シ遂ニ歐洲各國ニ擴マリ斯シテ今日ノ發展ノ基礎ヲ建テシモノナルカ如シ「ゲルマン」人ノ如キハ既ニ第一世紀頃麦酒ヲ日常飲料ニ秩セリト言フモ今日ノ如ク「ホッブ」ヲ使用スルニ至リシハ第九世紀頃ナリト云ヒ其レ以前ニ於テハ麦芽ノミニヨリ醸造セラレシモノノ如シ

本邦ニ於テ初メテ麦酒ヲ製造セシハ幕末ノ前方醫川本幸民氏ナリト云フ氏ハ横津三田ノ人「明治四年死ニ」ニシテ醫ニシテ理化ニ精通シ蘭書ノ記載ニ依リ私宅ニ於テ釀ヲ業キ麦酒ヲ試醸シタルモノナリト云フ然レトモ之レホタ実驗室ニ於ケル試醸ニ止マリ一ノ事業トナスニ至ラス其ノ後明治ノ初年英國製「バース」ビールノ輸入アリテ次イテ明治四年頃横浜市本町區五十七番館「ワーゲン」商會六十二番館佛國人「ゴードル」九十五番館「アデー」カンプルレ等又輸入ヲ用姓シ獨逸産米爾産等ノ麥酒相踵テ輸入セラレ獨逸産「ストツク」麦酒ノ如キハ一月ニ二万打ヲ起運スルノ盛況ヲ示セリト云フ惟フニ此ノ以前ニモ多少ノ輸入アリシモノナランモ微スハキ記録ナシ

斯テ麦酒ノ輸入次第ニ盛トナルヤ山梨縣甲府ノ人野口正章氏率先シテ麦酒醸造ニ志シ漸ク明治六年ニ至リ醸造ヲ開始スルヲ得タリ

其ノ製品ニ三ツ辨印「バース」麦酒ノ一ツ辨ニ則リシモノナリト云フ「明治七年創メテ市場ニ出セリ勿論其ノ規模狭少醸造高ノ如キモ本年ニ二百石ヲ出テサリシモノナリ是ヨリ釀明治五年横浜「市山手町」(舊釀業酒會社敷地)ニ英國人「コプラン」氏麦酒ヲ醸造シ天沼麦酒(天沼池ノ水ヲ汲ミテ麥酒ヲ醸造セルヲ以テ此ノ銘ヲ附シタリト云フ)ト銘シ專ラ在營外人ニ對スリ供給及上海地方

へノ輸出ヲ目的トセリ之レ本邦ニ於ケル麦酒醸造業ノ嚆矢ナリト云フ今年次順ニ麦酒醸造業ノ沿革ヲ記セハ次ノ如シ(以下明治年間ニ於ケル記録ハ主トシテ日本和洋酒鐘誌新聞社発行大日本洋酒鐘誌沿革表ニ依ル)

明治五年 横濱山手天沼ニ於テ英國人「ゴブラン」氏麦酒ノ醸造ヲ始メ天沼麦酒ト銘シ専ラ在留外人へノ供給及上海方面へノ輸出ヲ目的トセリ之レ現在ノ麒麟麦酒ノ前身ナリト云フ

明治六年 甲府ノ人野口正章氏右ノ「ゴブラン」氏ヲ招聘シテ三箭印麦酒ノ醸造ヲ開始シ翌七年東京市場ニ賣出ス年産額約二百石ナリ邦人ニシテ麦酒醸造業ノ先驅ヲナシタルモノハ即チ此ノ野口氏ナルハシト云フ

明治九年 北海道札幌ニ於テ北海道開拓使廳麦酒醸造場ヲ設立ス前拓使麦酒ノ名アリ之レ現在ノ大日本麦酒會社札幌工場ノ前身ナリ

明治十年 東京芝罘田本郡町ニ於テ資本金二万圓ノ櫻田麦酒合資會社創立セラレ櫻田麦酒ヲ醸造ス

明治十四年 東京府豊多摩郡千駄ヶ谷村ニ於テ菅内福三氏「F.M.商會」ヲ設立シ手形麦酒ヲ醸造ス

明治十五年 大阪府豊通商局ニ於テ麦酒ヲ醸造シ約三ヶ年同醸造セリト傳アレトモ事蹟明ナラス

明治十六年 櫻田麦酒合資會社小石川清水谷公園ニ移リ社名ヲ清水谷商會ト改稱

明治十七年 大阪ニ於テ小西儀助氏麦酒ヲ醸造シ小西麦酒ヲ發賣ス 明治二十一年五経醸造

明治十八年 東京京橋町ニ横山勘次郎氏大倉裁太郎氏ト共同ニテ大倉麦酒ヲ開始醸造高年産百五十石内外、明治二十一年ニ廢止ス

明治十八年 横濱ニ於テ資本金五万圓ヲ以テ日本醸造會社ヲ設立前記ノ英國人「ゴブラン」氏ノ麦酒醸造工場ヲ継承シ麒麟麦酒ヲ醸造ス年産額約二千石ナリ

明治十九年 前記前拓使麦酒ヲ大倉組ニ拂下ケテ氏業ニ移ス

明治十九年 東京府豊多摩郡中野ニ浅田甚右エ門氏浅田麦酒ヲ醸造、年産額七百石日清戰爭後千二百石ニ増石セリ明治四十五年廢止セリ

明治二十年 大阪府下吹田ニ大阪麦酒株式會社創立セラレ、旭麦酒ヲ醸造ス現在ノ大日本麦酒會社吹田工場ノ前身ナリ

明治二十年 愛知縣半田町ニ盛田善平氏九三麦酒ヲ醸造ス現在ノ日本麦酒釀氣會社ノ前身ナリ

明治二十一年 兼ニ大倉組ニ拂下ケタレ同拓使麦酒ハ其ノ継承ヲ改メ野崎政澤宗一氏大倉喜八郎氏及浅野総一郎氏等ノ經營ニ移シ資本金七万圓ヲ以テ札幌麦酒醸造會社ヲ設立シ札幌麦酒ヲ醸造ス

明治二十一年 大阪ニ小西儀助氏原井新次郎氏橋本清三郎氏等資本金一万五千圓ヲ授シテ大阪洋酒醸造會社ヲ組織シ大阪市北區天滿橋筋所在元清酒醸造場ヲ買入レ麦酒「ブランド」トシテ「ウキ」スキール等ノ洋酒ヲ製造セリ麦酒ノ醸造高八年四百石ナリシガ明治二十五年マア繼續シ翌年工場ヲ横山勘次郎氏ニ貸渡ス

明治二十二年 大阪府下豊崎村ニ資本金五万圓ヲ以テ帝國麦酒株式會社創立、手形麦酒工場ヲ買収シテ帝國麦酒ヲ醸造ス明治二十五年廢業ス

明治二十五年 東京市安藤又吉氏外數名相計リ横濱市野田橋通岩谷留吉氏ヨリ其ノ所有ニ依ル大黒印ナル麦酒商標ヲ買収シ大黒念ヲ起シ麦酒ノ販賣ヲ開始ス

明治二十八年ニ至リ東京府下淀橋町ニ大黒麦酒工場ヲ設ケ初メテ自ラ麦酒ノ醸造ヲ為セリ

明治二十六年 横山勘次郎氏大阪市北區天滿橋通所在ノ大阪洋酒會社ノ工場ヲ借受ケ日ノ出麦酒ヲ醸造ス

後大正二年商標ヲ大日本麦酒會社ニ買却ス

明治二十六年 神奈川縣程ヶ谷町ニ東京麦酒株式會社ヲ創立シ櫻田麦酒ヲ東京麦酒ト改稱セリ年産額約三千石ナリ明治二十九年東京麦酒新株式會社ト改稱、明治四十年更ニ大日本麦酒會社ニ合併現在ノ程ヶ谷工場トナレリ

明治二十九年 養二愛知縣半田町ニ於ケル盛田善平氏經營ノ九三麥酒ハ中野半左工門氏等十數名  
 資企人トナリ資本金六十萬圓ヲ以テ株式會社ヲ組織シ九三麥酒株式會社ト稱ス  
 明治三十九年 日本麥酒株式會社・札幌麥酒株式會社及大阪麥酒株式會社ハ合併シテ大日本麥酒  
 株式會社トナル資本金五百六十萬圓・其ノ後明治四十一年更ニ増資シテ資本金一千二百萬圓ト  
 ナレリ

明治三十九年 横山助次郎氏日ノ出資酒ノ工場ヲ大阪市外厄ヶ崎ニ移ス  
 明治四十年 東京麥酒新株式會社ハ大日本麥酒株式會社ニ合併シ在ヶ谷工場トナル

明治四十年 野崎近藤康平氏豊川良平氏今村敏三氏高木重三氏等十餘名資企ノ下ニ資本金二百  
 五十萬圓ヲ以テ麒麟麥酒會社ヲ設立シ日本醸造株式會社(明治三十二年日本醸造會社ハ日本醸  
 造株式會社ト改稱ス)ノ事業ヲ繼承ス

明治四十一年 是ヨリ養九三麥酒會社ハ明治三十九年日本第一麥酒會社ト改稱シ本社ヲ東京ニ移  
 シ従来ノ醸造場ヲ半田工場ト稱シ來リシカコノ年更ニ加喜登支酒會社ト改稱シ根津嘉一郎氏主  
 トシテ之ヲ經營ノ任ニ當レリ

明治四十三年 福岡縣門司市山田新八郎氏主唱ノ下ニ牡丹支酒株式會社ヲ創立ス後神戸市於水商  
 若誠會社株ノ大部分ヲ買收シ帝國麥酒株式會社トシモノヲ組織シ大正二年四月ヨリサクラビー  
 ヲ醸造ス

右ノ外國醸造止共ニ明カナテナルモ明治四十五年以前ニ存在シテ現在廢止セラレタリト認ムル麥酒  
 會社及麥酒名ハ次ノ如シ

麥酒名	會社	所在地	經營者
蛇目麥酒	東京工場八官町		磯貝善兵衛
イオシン麥酒	東京本郡區湯島		島貴支酒株式會社
喜造麥酒	東京市外品川		吉五郎
喜造麥酒	東京市外定橋		

麥酒名	會社	所在地	經營者
嶺南麥酒	神奈川・横浜		濱谷信五郎
信濃麥酒	長野野		山岸新太郎
大和麥酒	長野野		折井榮太郎
櫻井麥酒	長野野		中村實平
富士麥酒	和歌山		池田伊三郎
西館麥酒	北陸		北陸麥酒株式會社
サグマ麥酒	北陸		魚澤正
鶴岡麥酒	山形		佐藤賀七郎

其ノ後大正正間ニ至リテハ大正八年神奈川縣鶴見町ニ日英醸造會社設立セラレ「カスケードビール」  
 ヲ發賣シ又九年仙台市ニ富士麥酒ノ醸造アリ而シテ富士麥酒ハ大正十二年麒麟麥酒會社ニ合併セ  
 ラレ日英醸造會社ハ昭和三年十二月株式會社專賣ノ買收スル所トナリ現在本邦内地ニ於ケル麥酒會  
 社ノ總數ハ五社其ノ工場數十四而シテ其ノ總醸造能力ハ一ヶ年約百五十萬石ノ多キニ達セリ今各  
 酒會社別工場及發賣麥酒名等記載セハ次ノ如シ(昭和四年七月現在)  
 (1)大日本麥酒株式會社 東京府荏原郡百鬼町大字三田二四七  
 發賣麥酒名 エビスビール サンボロビール アサヒビール  
 ミニハンビール シーズンビール サンボロ黒ビール  
 アサヒ黒ビール チンタホビール

工場名	工場所在地	創業年月	現在 麥酒 製造 能力 (一ヶ年)
日黑工場	東京府荏原郡日黑町	明治三十九年三月	二十萬石
吾妻橋工場	東京市本所區中ノ郷瓦町一	△	十一萬石

吹田工場	大阪府三島郡吹田町八。六	全	二十万石	三	百四十万基
札幌工場	北海道札幌市北二條東四丁目	全	七万六千石	三	百二十万基
博多工場	福岡縣筑紫郡那珂村一。二。三。	全	九万石	二	百五十万基
石古屋工場	愛知縣名古屋市中區千種町千種一	大正十四年一月	十石	二	百五十万基
青島工場	支那山東省青島登州路	全	一万四千石	十	百五十万基
合計七			七十九万石		(容量=概算約十六万九千石)

(四) 麒麟麥酒株式会社  
 横浜市鶴見區生麥町明神前一七  
 発行麥酒名 キリンビール、キリン黒ビール

工場名	工場所在地	創業年月	現在	能
横浜工場	横浜市鶴見區生麥町	大正十四年二月	十四万石	五百六十二万基
神崎工場	兵庫縣川邊郡小田村神崎	全 六年五月	十六万石	新設
仙台工場	仙台市小田原町	全 十二年八月	十石	五百六十二万基
合計三			四十万石	(容量=概算約十二万二千石)

(ハ) 日本麥酒釀造株式会社  
 東京市京橋區銀座一丁目九  
 発行麥酒名 エニオンビール、カブトビール

工場名	工場所在地	創業年月	現在	能
東京工場	埼玉縣北足立郡横曾根村	大正十三年六月	十石	不
西宮工場	兵庫縣武庫郡今津町	昭和二年二月	十石	全
半田工場	愛知縣知多郡半田町	明治廿九年	五石	全
合計三			二十五万石	六

(ニ) 櫻麥酒株式会社  
 福岡縣門司市大里町  
 発行麥酒名 サクラビール、サクラ黒ビール

工場名	工場所在地	創業年月	現在	能
全工場	福岡縣門司市大里町	明治四十五年六月	七石	五

(ホ) 株式会社寿屋  
 大阪市東區住吉町五二  
 発行麥酒名 新カスケードビール

(二) 醸造法ノ概要

1. 麥芽製造ノ概要  
 麥芽トハ大麥ニ適當ナル水分ト温度トヲ與ヘテ發芽セシメタルモノニシテ麥酒醸造上ノミナラス船製造酒精製造等ニモ廣ク使用セラル、モノナリ

(イ) 原料大麥  
 麥芽ノ原料ハ直チニ製品麥酒ニ重大ナル結果ヲ及ボスヲ以テ麥芽原料タル大麥ノ採擇ハ麥酒醸造上先ツ第一ニ注意スヘキ重要事項ナリ而シテ別項(附録一ノ(一)品質及品種)ニ述ヘタル如ク發芽、色澤、乾燥、香氣、純正度、粒質、熟度、重量率ノ諸矣ニ付キテハ特殊ノ要件ヲ具備セサルハカラズ

(ロ) 大麥ノ選粒  
 大麥ハ扇風装置ノ精選機ニ投シテ藁屑、損粒其ノ他ノ不純物ヲ除去スルト共ニ粒子ヲ均整ナラシムルハ浸漬ノ際吸水量ヲ一様ナラシメ從テ發芽ヲ平等ナラシムルカ為ナリ

(ハ) 洗滌及浸漬

精製機ニ依リ選粒セラレタル大麦ハ浸漬槽ニテ充分ニ沈澱シ浮游物を除去シ然ル後一晝夜半又ハ二晝夜ノ間浸漬シ麥芽ニ充分ナル水分ヲ吸收セシメ其ノ含水量ハ四・%内外ヲ程度トス

(一) 麥芽

麥芽装置ニハ種々ヤルモ之ヲ普通ニホ式 (Tenne) ト通風式 (Pneumatisch) トニ大別シ通風式ハ更ニ西式 (Kasler) トトロンメル式 (圓筒式) (Trommel) トニ區別セラル  
我國ニ於テハ大工場ハ殆ト皆トロンメル式ヲ採用スントモ大日本麥酒會社札幌工場及麥酒原料會社(滋賀縣野洲町)等ニテハホ式ヲモ利用シ居レリ

ホ式麥芽法

最モ原始的麥芽法ニシテ清潔ナル通風好キ室ニ浸漬セル大麥ヲ四五寸内外ノ厚サニ撥テ温度ヲ比較的低ク(一。度乃至一五度)保テ自然ニ發芽セシムルモノナリ

麥芽製造ニハ比較的低温ナルヲヨントシ又其ノ他ノ事情ヨリシテ普通其ノ製造ノ時期ハ九月頃ヨリ翌年ノ六月頃迄ノ間ニ行ハレ夏期夫暑ノ候ヲ避クルヲ帶トス發芽ノ際ニハ炭酸瓦斯ヲ放出スルヲ以テ換氣装置ヲ良好ナラシメ又發熱スルヲ以テ發芽ノ日ヲ追ツテ粒層ヲ薄クシ薄ニ攪拌シテ温度ヲ調節ス

發芽ニ要スル日數ハ發芽ノ温度、麥ノ品質、産地其ノ他ノ條件ニ依リ長短アレトモ普通七日乃至八日間ヲ要ス

麥ノ發芽狀態ハ幼芽ノ長十八粒長ノ大凡四分ノ三、根ノ伸長程度ハ粒長ノ約二倍ニ達セル時ヲ適度トス實際工場ニ於テハ發芽程度ハ大麥全量(約八石位)ノ五・%カ粒長ノ四分ノ三程度ニ幼芽カ伸長シ三・%カ三分ノ二ニ二・%カニ分ノ一程度ニ伸長シ無發芽カ殆ト後密セス(二〇。一三。粒ハ漏入スル場合アリ)此ノ程度ニ發芽セル麥芽ヲ綠麥芽又ハ生麥芽ト云フ綠麥芽ハ直チニ乾燥室ニ移シ乾燥ス

ホ式發芽法ハ廣大ナル面積ヲ要シ人カヲ費シ又氣壓高キ所ニテハ行ヒ難キ缺點ヲ有ス

通風式發芽法

内地ニ於ケル主ナル麥芽工場ニテハ通風式發芽法トロンメル式ヲ採用スホ法ハ湿度ヲ含ム空氣ヲ

流通セシメテ湿度並温度ヲ調節スルモノニシテ麥芽製造上大イニ進歩セルモノナリ  
トロンメル式發芽法

横架セル軸ニ依リテ緩慢ニ自動的ニ回轉ヲナス數層ノ巨大ナル圓筒ニシテ(大日本麥酒會社博多工場ノ装置セルモノハ大麥一四〇。キロ入ナリ)之ニ大麥ヲ入レ軸部ノ管ヨリ絶エス直徑ノ空氣ト濕氣ヲ供給セシメテ發芽セシム發芽ノ程度ハホ式ト何様ニシテ發芽ニ要スル日數ハ普通八日間トス

ホ乾燥

麥酒製造用ニハ生麥芽ヲ更ニ乾燥機ニ入レテ乾燥セシム斯クシテ出タル麥芽ハ乾燥度ヲ稱ス即チ乾燥ニ依リ麥芽ノ性質ヲ変セシメテ生味ヲ除去シ一種ノ乾燥香味ヲ麥酒ニ付與セシメンカ爲ニシテ淡色啤酒又ハ黒麥酒ト呼ハルカ如キハ皆麥芽ノ乾燥ノ程度ニ依ルモノニシテ是亦麥酒ノ醸造上重要ナル一操作ナリ乾燥装置モ種々アレトモ普通我國ノ大工場ニテハ空氣乾燥装置ノ圓筒式ニ依ル圓筒式ハ普通直徑ノ中ニ石炭ヲ焚キ其ノ熱氣ヲ多數ノ管ニ通シ其ノ表面ノ空氣ヲ熱シ之ヲ麥芽中ニ送り乾燥スルモノニシテ乾燥室ハ二段又ハ三段ノ赤ヲ有シ赤ハ多數ノ小孔ヲ有スル鐵板ヨリ成ル三段末ノ場合ハ先ノ上層ノ赤ニ生麥芽ヲ載セ約十二時間乾燥シ順次下段ノ赤ニ移シ各段共ニ約十二時間宛ヲ攪拌乾燥ス乾燥程度ハ水分ニ%乃至五%ナリ黒麥酒製造ニ用ヒラル、麥芽ハ乾燥度ヲ更ニ球形ノ鐵器ニ入レテ魚熱シタルモノナリ大故ニ黒麥酒ハ常ニ一種ノ魚味ヲ有ス

仕上

乾燥シタル麥芽ハ尚幼根及破損粒其ノ他不雜物ヲ含有スルヲ以テ之ヲ除去ス  
幼根ハ苦味物質ヲ含有シ麥酒ニ一種ノ不快ヲ附與スルヲ以テナリ乾燥シタルモノノ幼根ハ容易ニ離脱ス此ノ場合普通幼根分岐機ヲ使用ス斯クシテ幼根ヲ分離シ精選セル麥芽ハ乾燥度ヲニシテ普通麥石礫造マテ空氣中ノ水分ヲ吸收セサル様密閉貯藏ス

(二) 生産歩止

大麥ヨリ麥芽ノ生産歩止ハ産地、方法、其他種々ノ原因ニヨリテ一概ナラサルモ普通重量歩止ニテ七八%ナリ容量ハ稍減少スルトモ差シタル變化ナシ今調査セル麥芽ノ生産歩止ヲ五場別ニ示セハ後ノ如シ

五	場	別	麦	止	(重	量)	麦	ノ	重	量	(二倍)
					七五	七六%					
平		均			七五						
					八〇						
					七五						
					八〇						
					二五〇						
					二六六						
					二六六						
					二六六						
					二六六						

(イ) 麦芽製造ノ副産物

麦芽製造ノ副産物トシテノ主ナルモノハ勃板及大麦精選ノ際ノ層大雜物細身虫喰等ナルカ近時検査ノ嚴重ナルト野養法ノ進歩シタルカタメ層類反大雜物類ハ僅少ナルニ至レリ勃板ハ一夫板レト稱シテ肥料及牛、豚、鶏等ノ飼料トシテ販賣セラル、モノナルカ之カ生産量ハ大麦ノ重量按止トシテ四〇% 程度ナリ之ヲ工場別ニ見レハ

工場別	大	中	小
平均	九〇.〇	三〇.一四	四二.〇
		二五.〇	四六.〇
			四四.〇

(ロ) 麦芽ノ貯蔵

麦芽ハ極メテ湿氣ヲ吸ヒ易キヲ以テ各製酒會社ハ之ヲ貯蔵庫ニハ相當周到ナル設備ヲナシ、アリ定額用材ハ木材又ハ鉄筋混泥土、煉瓦、石造等種々マレトモ其ノ設備ノ大要ハ二重壁ヲ用ヒテ全然外氣ヲ隔絶シモ倉庫内ニ溜メテ貯下ケタルカ如キ位置ニオキ其ノ中ニ麦芽ヲ貯蔵スルア管通トス貯蔵ノ期間及貯蔵力ハ一定セナルモ貯蔵方法宜シキ時ハ相當長期間ノ貯蔵ニ耐ヘ得ルモノナリ然レトモ極メテ湿氣ヲ吸收シ易キヲ以テ其ノ貯蔵期間ハ普通二年乃至三年間程度ニシテ使用上最適當ノ期間ハ麦芽製造後四十日乃至五十日ヲ経過シタル時トシテハ製造後直チニ使用スルコトハ麦酒ニ濁ヲ早ク生セシムルノ缺欠アルヲ以テ相當ナル期間ノ貯蔵ヲナスヲ可トスルモノノ如シ然レトモ永キ貯蔵ハ虫害湿氣吸收等ノ虞アリ且又經濟的ニモ適當ナラズ

小麦酒醸造ノ概要

小麦ハ麦芽汁ニホソブテ加ヘ麦酒酵母ヲ以テ醸造シタルモノニシテ一般ニ酒精ノ含有量少ク(内知麦酒ハ外面麦酒ニ比シ稍アルコト)含有量大ナルモ三〇%乃至五〇%程度トス(苦味ヲ有シ炭酸瓦斯ヲ含ミ清涼味ヲ多量ニ含ム麦酒ノ適量ノ飲用ハ消化ヲ助ケ栄養上効果アリト言フ)

(イ) 原料

麦酒ノ原料ハ麦芽、ホソブ、水及酵母ニシテ外ニ碎米ヲ用フ外固ニ於テハ碎米ノ代リニ小麦、玉蜀黍、糖類ヲ加用スルモノアリト雖モ本邦ニ於テハ殆ト碎米以外ハ用ヒサルモノノ如シ我輩ノ麦酒税法第一條ニ

麦酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麦酒税ヲ課ス

本法ニ於テ麦酒ト稱スルハ麦芽、ホソブ及水ヲ原料トシテ麦酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外純重量麦芽ノ十分ノ五ヲ超エタル米、玉蜀黍、馬鈴薯、麥粉又ハ砂糖ヲ原料トシテ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麦酒ト看做ス

トアリテ米ノ使用量ヲ限定セリ今各製酒會社ニテ實際使用セル仕込ノ實例ヲ示セハ次ノ如シ

原料	A	B	C
麦芽	二四.〇%	三〇.二	四三.〇
米	六五.〇	一.二	一七.三
ホソブ	〇.五	六.八	一.七
水	六九.〇	一〇.六	八.五

各原料ノ麦酒用トシテ具備スヘキ條件

(1) 麦芽

- 一 粒ハ整一ニシテ大粒豊圓ナルヲ可トス
- 一 色澤ハ大麦ト殆ト異ナルコトナク美麗ナル淡黄色ヲ呈スルコト
- 一 味ハ甘味ヲ有シ特有ノ炒燥香氣アリテ尚モ酸味又ハ微味等アルハ方ラス
- 一 乾燥ハ充分ニシテ齒ニテ嚼メハ音ヲ立テ、容易ニ割レ得ル程度ニシテ割目ハ白色粉末状ヲ呈スルヲ可トス

含水量ハ $\frac{1}{2}$ 乃至 $\frac{5}{10}$ 程度ヲ可トス余リニ乾燥シ且キタルモ亦操作上不便アリ  
 一 麦芽ノ重量ハ百立ニ付五。キロ乃至五四キロヲ可トス即チ一トノ重量一キロ一ニ六七分一トノ可トス

(2) ホップ

- 一 効力ハ麦芽一ノ伸長程度ハ一様ニシテ粒長ノ三分ノ二程度ヲ適當トス
  - 一 エキス分ヲ多量ニ含ミテアスターゼノ糖化力強キヲ可トス
- ホップノ麦酒醸造ニ使用スル部分ハホップノ雌花ニシテ成熟セルトキ之ヲ採集シ人互乾燥ヲ行ヒ圧縮シテ香氣ノ消失セザル様内卸ヲ錫箔ニセル箱ニ密閉シテ輸送又ハ貯藏ヲナスモノナリ之程マテ灰質シ易ク亦香氣ヲ失ヒ易キヲ以テナリ

一 外觀美麗ニシテ淡紅色又ハ帶綠黄色ヲ呈シ蔓、葉等夫雜物ヲ混入セサレト、過熱ニシテ赤褐  
 色ヲ呈シ且赤熱ニシテ綠色ニ過クルモノハヨロシカラス  
 一 ホップリンレノ含有量ハ多量ナルヲ可トス年ヲ経テホップリンレ褐色トナリ又香氣微弱トナリ  
 一 タルモノハ製品麦酒ノ質ヲ害スルヲ以テ不可ナリ  
 一 手ニテ握リテ圓マリ様シテ嗅グトキ香氣高クシテ而シテ鮮著相重リア密生セルモノヲ可トス  
 一 苦味ハ爽快ナルヘク舌ヲ刺ス方如キ味アルモノハ不可ナリ  
 一 貯藏力ヲ強シ且色澤ヲ美麗ナラシメシメカ為硫黄等ニテ燻蒸セルモノ等ハ品質宜シキモノニ非ズ  
 一 貯藏スルニホップア麦酒ニ用ル目的ハ表層ニ在リ香氣ト爽快ト苦味ヲ附與スルノニシテ

(3) 米

一 水ハ麦芽ノ代用トシテ澱粉質ノ補給トナリ從テ酒精分ノ補給トモナリ且又本邦人向ノ味ト香トヲ附與スルモノニシテ法律上麦芽全重量ノ十分ノ五以內ノ混合ヲ認メラル、モノナリ普通外米ノ碎米ヲ用アルモノニシテ品質ハ差シテ嚴重ナル要件ヲ求メス寧ろ經濟的ナルヲ可トス

(4) 水

一 軟水ニ醸造用トシテハ水ハ重要ナルモノナレトモ硬水ハ殊ニ多量ニ水ヲ要シ又良質ノ水ヲ要求ス仕込用トシテハ硬水ヲ可トシ沈澱、浸漬用トシテハ軟水性硬水ヲ良好トナス

(四) 麥芽汁ノ調製

一 麥酒醸造ノ第一條件ニシテ麦芽中ニ含有セラル、デアスターゼヲ効力セテ澱粉ヲ醱酵性糖分ニ炭化ナセ酵母ヲ加ヘテ醱酵セシムヘキ麦芽汁ヲ作ル處ノ操作ナリ

(1) 麦芽ノ粉碎

一 麦芽成分ヲ充分ニ浸出セシムル為ニ粉碎機ニカケ微細ニ粉碎ス然レトモ糖化醱酵ヲ適過スル際操作上ノ不便ト混濁物質ノ浸出ヲ虞ル、故テ以テ圧力ヲ用ヒ表皮膜ヲシテ適過管ノ夜目ヲ務メシムル為其ノ外皮ハ比較的粗片ニ止メ内實ハ充分ニ粉末状ニ打破スルヲ要ストス

(2) 糖化

一 粉水ニセル麦芽ニ水ノ適量ヲ加ヘ混合攪拌セル後熱湯ヲ加ヘテ麦芽汁ヲ作り一定時間糖化セシム糖化ヲ了リタルモノヲ濾過管ニ移シテ濾過管ニシムカクシテ濾過セル麦芽汁ニ「ホップ」ヲ加ヘテ煮沸スニシテ煮沸ニヨリテ「ホップ」ノ含有スル重要成分ヲ麦芽汁ニ浸出シ同時ニ沈澱水等ニテ稀薄セラレタル汁ヲ濃縮シ凝固性蛋白質ヲ分離シ麦芽汁ヲ殺菌ス之レ後ニ糖化作用ヲ充分ニ行ハシムル目的ナリ

一新クシテ「ホップ」ヲ加ヘ煮沸セル麦芽汁ヲ濾過器ニカケテ圧縮濾過セルモノハ冷却セシメテ醱酵室ニ送ル

(ハ) 醱酵

冷却装置ニ於テ冷却セラレタル麦芽汁ハ醱酵室ニ於テ麦酒酵母ヲ添加シテ醱酵セシムカクシテ醱成  
セラレタルモノ即チ麦酒ナリ

醱酵ニハ主醱酵ト後醱酵トアリテ先ツ冷却セラレタル麦芽汁ヲ醱酵室ノ主醱酵槽ニ導キテ培養セル  
酵母ヲ添加シテ醱酵セシム室ノ温度ハ摂氏八度以下ノ寒冷ニ依ツテ普通トスカクテ主醱酵ア了リテ  
ル麦酒ハ未蒸ニシテ未タ飲料ニ適セサルヲ以テ更ニ後醱酵槽ニ導キテ後醱酵セシム

右ノ主醱酵及後醱酵ニ要スル日数ハ大凡十日間トスカクシテ後醱酵ノ了リタル麦酒ハ更ニ貯藏庫ニ  
送りテ後約三ヶ月間ヲ貯藏ス

(二) 瓶詰及殺菌

後醱酵ア了リテ蒸成セルモノハ即チ生麦酒ナリ然レトモ生麦酒ハ未キ保存ニ耐ヘタルヲ以テ之ヲ瓶  
詰ノ後六。度ノ湿湯ニテ約三十分間殺菌シテ之ヲ市場ニ出ス之即チ普通ノ麦酒ナリ

麦酒瓶ニ普通褐色ヲ用フルハ光線カ麦酒ニ影響ヲ及ホシテ混濁シ易キヲ以テナリ普通ノ麦酒ト雖モ  
未キ保存スルトキハ麦質ノ腐アルヲ以テ普通麦酒會社ハ三ヶ月程度ノ保證ヲ以テ市場ニ賣出スモノ  
ナリ

(ホ) 麦酒ノ生産停止

麦酒ノ仕入割合及生産停止ハ原料ノ品質、醸造方法等ニ依リ一様ナラサルモ生産停止ハ容量ニ於テ  
原料麦芽ノ約三倍ノ麦酒ヲ得ルモノノ如シ今各麦酒會社ニ於ケル仕込及生産停止ノ例ヲ掲クレハ次  
ノ如シ

例一

麦芽	二四、〇%
碎氷	六、五
ホップ	〇、五
水	六九、〇

右ノ仕込ミヨリ精製麦酒マテニ多少ノ減熱アリテ生産停止ハ仕込容量ノ約六四——六五%ナリ

ア以テ麦芽ニ對スル生産ノ停止ハ約三倍ナリ

例二

麦芽百斤ハ約六斗ニ付一ア原料トシテ得ラレ、麦酒ハ約二石ナラテ其ノ生産停止ハ約三倍ナ  
リ而シテ仕込割合ハ次ノ如シ

水	百石
麦芽	三〇、二四斤
碎氷	一、二八〇斤
ホップ	六二斤

例三

一石ノ麦芽ヲ用ヒテ得ラレ、麦酒ハ約四打八箱ナリ一本ニ合大勺入レトシテ八百六十四本ノ  
分約三石一斗一升ナリ即チ麦酒ハ原料麦芽ノ三倍程度トス

例四

原料麦芽ノ容量ニ於テ三倍乃至四倍ノ麦酒ヲ生産スルモノナリト云フ

例五

アオーゲル氏推算  
一。〇。既ノ麦芽ヨリ三。乃至六。節ノ麦芽汁ヲ生産シ右麦芽汁ヲ醱酵セシメテ得ラレ、麦酒ハ缺  
減割合ニ。乃至二五%ナリト云フ  
今假リ二百斤ノ麦芽ヨリ六。節ノ麦芽汁ヲ得タリトシニ。〇%ノ減減割合トセハ麦酒ハ四八節ナ  
リ即チ麦芽一ヨリ約二倍六分ノ麦酒ヲ得ラレ、コト、ナル

(ハ) 麦酒ノ副産物

麦酒醸造ノ際ノ副産物トシテハ所謂麦酒粕アリ麦酒粕ハ麦芽汁ヲ醱酵濾過分離セシムル時ニ生スル  
モノニシテ牛馬等ノ家畜飼料トシテ又肥料トシテ使用セラル其ノ生産量ハ原料ニヨリ又醸造法ニヨ  
リ一様ナラサルモ大約麦酒百石ヨリ約二五。〇。既即チ麦芽一石ニ對シ約七貫十斤カ水分ヲ多量ニ含  
有スルヲ以テ右数字ハ正確ナラズ尚醱酵後「ホップ」粕等ト共ニ多少ノ「オー」ヲ生スルモ其ノ量



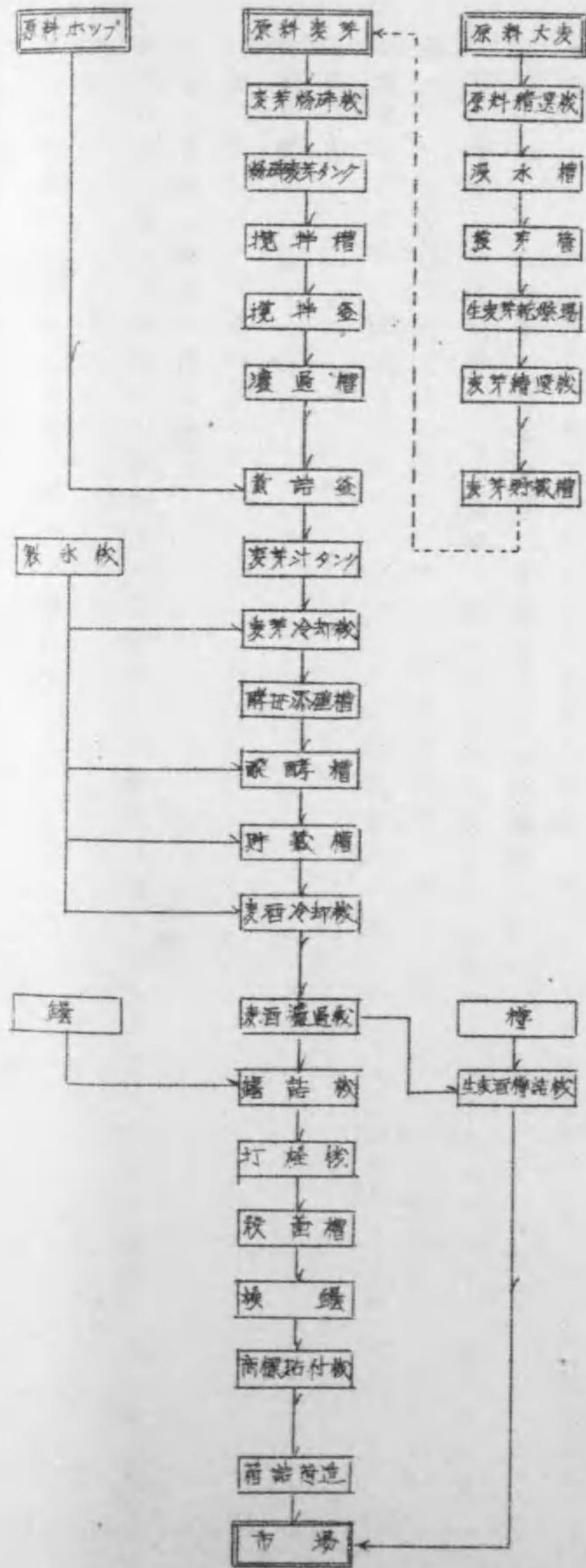
八厘少ナリ

### 附) 麦酒醸造及仕上効程ノ順序圖解

以上述ヘタル麦酒醸造ノ順序ヲ略圖解スレハ次ノ如シ而シテ大麦ヨリ麦酒ニナル迄ノ日数ハ大体ニ於テ

大麦ヨリ麦酒マテ 十一日乃至十五日  
麦酒ヨリ麦酒マテ 五十日乃至九十日トス (貯藏期間モ含ム)

### 麦酒醸造及仕上効程ノ順序一覽



### 二) 麦酒會社ノ概況

#### 大日本麦酒株式會社

(昭和四年六月現在)

(一) 本社所在地及設立年月日

東京府荏原郡目黒町大字三田二百四十七番地

明治三十九年三月二十六日創立

(二) 現在代表者

社長 馬越 恭平

(三) 現在資本金

資本金額 八千萬圓 拂込金額 五千萬圓

(四) 沿革概要 (創立、事業擴張、合併、増資等)

創立 明治三十九年三月二十六日 日本麥酒株式會社、札幌麥酒株式會社、大阪麥酒株式會社ノ三會社ノ新設合併ニ依ル創立資本金五百六十萬圓ナリ

事業擴張其ノ他

明治四十年三月 東京麥酒株式會社ヨリ原土ヶ谷工場ヲ買収シ専ラ清涼飲料水ヲ製造ス

明治四十一年九月 資本金ヲ一千二百萬圓ニ増資ス

大正五年十月 支那青島所在英獨麥酒醸造會社ノ工場ヲ買収ス

大正九年六月 資本金ヲ三千八百萬圓ニ増資ス

大正九年七月 日本硝子工業株式會社ヲ吸收合併シ資本金ヲ四千萬圓トス

大正十年七月 福岡縣博多ニ九州支店ヲ設ケ博多工場ヲ建設ス

大正十四年一月 名古屋市千種ニ名古屋支店ヲ設ケ名古屋工場ヲ建設ス

昭和三年七月 資本金ヲ八千萬圓ニ増資ス

(五) 工場所在地、設立年月日、製造能力、製品ノ種類及名稱

工場名	所在地	設立年月日	製造能力	製品
目黒五工場	東京府荏原郡目黒町本倉田三二七	明治三十九年三月	二百三十万石	エビスビール ミネハンビール 麥芽
香妻橋五工場	東京市本所區中ノ郷瓦町一	明治三十九年三月	十一万石	カツホロビール カツホロ黒ビール
吹田五工場	大阪府三島郡吹田町八百六番地	"	二十万石	アサヒビール
札幌五工場	札幌市北二條東四丁目番地	"	四万石	リボンビール リボンラスベリ リボンタンサン チボリン
博多五工場	福岡縣筑紫郡博多町大字博多三三三	大正十年七月	七万五千石	カツホロビール カツホロ黒ビール 麥芽
名古屋五工場	名古屋市中區千種町字千種一番地	大正十四年一月	九万五千石	アサヒビール チボリン
青島五工場	大連省青島登州路大港地	大正五年十月	三百五十万石	チボリン チボリン チボリン
保土ヶ谷五工場	横濱市保土ヶ谷區神下町十七番地	明治四十年三月	一万四千石	チボリン

口日本麥酒鑛泉株式会社

(一) 本社ノ所在地及設立年月日  
 東京市京橋區銀座一丁目九番地  
 明治二十九年十一月十六日創立

(二) 現在代表者  
 取締役社長 根津嘉一郎

(三) 現在資本金  
 資本金額 二千萬圓 増込金額 一千四百萬圓

(四) 沿革概要  
 明治二十年愛知縣知多郡半田町ノ有志中野又左工門、盛田善平諸氏經營ノ九三「ビール」ニ始マル

明治二十九年九月 資本金六十萬圓ノ株式会社組織ノ會社トナシ九三「ビール」株式會社ト稱セリ  
 明治三十二年六月 新工場落成シテ「カブトビール」ヲ發賣ス

明治三十九年 資本金三百萬圓ニ増加シ社名ヲ日本第一麥酒株式會社ト改稱シ本社ヲ東京銀座ニ支店ヲ大阪及名古屋ニ設立ス  
 明治四十一年七月 社名ヲ加賀麥酒株式會社ト改稱ス

大正八年九月 資本金ヲ六百萬圓ニ増加ス  
 大正十年五月 現在ノ社名日本麥酒鑛泉株式會社ト改稱ス  
 大正七年十二月 半田工場ニ麥芽工場新設

大正十一年三月 歐洲戰爭平和復古ノ記念トシテ新製品「エニオンビール」ヲ發賣ス  
 大正十年七月 三ツ矢「サイダー」三ツ矢平野水ノ製造元タル帝國鑛泉株式會社資本金百五十萬圓及其ノ姉妹會社タル日本製糖株式會社資本金二百萬圓ヲ合併シテ資本金九百萬圓トナル

大正十三年六月 東京工場新設、清涼飲料水發賣  
 大正十四年二月 企業酒工場竣工

大正十四年七月 全線飲料株式會社ヲ合併、資本金一千万圓ニ増加ス  
 大正十四年 東京工場内ニ王冠製造工場ヲ建設

大正十五年三月 東京工場内ニ製麥工場ヲ建設、昭和二年二月ヨリ製麥ヲ開始

大正十五年六月 西宮五場ヲ新設、昭和二年二月三ツ矢「サイダー」三ツ矢「レモラ」金線「サイダー」ノ製造開始  
 昭和二年十一月 企五場内ニ麦酒ノ醸造ヲ開始シ昭和三年三月「ユニオンビール」ヲ發賣ス  
 大正十五年七月 資本金ヲ二千万圓ニ増加ス  
 現在一十年間ノ生産能力及製品名稱

製品種類	高	力	名	稱
一、ビール	ルニ十五万石	ユニオンビール、カプトビール		
一、飲料	水十萬石	三ツ矢サイダー、三ツ矢野水、三ツ矢シトロン、三ツ矢レモラ、金線サイダー、金線シトロン		
一、麥	六萬石			
一、炭	三千萬石			
一、五	百萬石			

(五) 五場所所在地、設立年月日、製造能力及製品

五場名	所在地	設立年月	製造能力	製品
東京五場	埼玉縣北足立郡養曾根村	大正十三年八月十日	十萬石	三ツ矢レモラ、三ツ矢サイダー、三ツ矢野水、三ツ矢シトロン、三ツ矢レモラ、金線サイダー、金線シトロン
西宮五場	兵庫縣武庫郡今津町	昭和二年二月十日	十萬石	ユニオンビール、カプトビール
半田五場	愛知縣知多郡半田町		五萬石	三ツ矢サイダー、三ツ矢野水、三ツ矢シトロン、三ツ矢レモラ、金線サイダー、金線シトロン
平野五場	兵庫縣川邊郡平野村		五萬石	三ツ矢サイダー、三ツ矢野水、三ツ矢シトロン、三ツ矢レモラ、金線サイダー、金線シトロン
尾崎五場	尾崎市福島		五萬石	三ツ矢サイダー、三ツ矢野水、三ツ矢シトロン、三ツ矢レモラ、金線サイダー、金線シトロン

八 麒麟麥酒株式會社

(一) 本社所在地及設立年月日

横濱市鶴見區生麥町寺明神前十七番地  
 明治四十年二月二十三日

(二) 現在代表者

取締役社長 伊丹 二郎

(三) 現在資本金

資本金額 一千八十萬圓 増込金額 八百三十萬圓

(四) 沿革概要

明治五年横濱山手天沼ニ於テ米國人コブラント「スプリングヴァレー」、プリエワリー「P」ヲ創設シ麥酒ノ醸出ヲナス  
 明治十八年著名内外人ノ設立ニ依リ「フジヤパン」、プリエワリー「P」コンパニー「P」前記醸造所ヲ繼承ス  
 明治四十年豊川夜平、近藤兼平、水井源治、野田氏等資本金ニ百五十萬圓ヲ以テ「P」キリンビール株式會社ヲ設立シ前記會社ノ權利義務ヲ繼承シ大正六年資本金五百萬圓ニ同十二年金一千八十萬圓ニ増資シ今日ニ至ル  
 又大正六年大阪市外神崎ニ分五場ヲ設置シ大正十二年仙台市東洋醸造株式會社ヲ合併仙台五場トナス  
 同年同東大震災ニヨリ舊横濱五場刷壞全滅セルニツキ大正十四年横濱市生麥町ニ横濱五場復興ニ着手、同十五年竣工、昭和三年同五場内ニ清涼飲料水五場竣工、清涼飲料水ノ製造ヲナス同年横濱五場ニ隣接シ製糖五場ノ建設ニ着手ス  
 (五) 五場所所在地、設立年月日、製造能力及製品

工場名	所在地	設立年月	製造能力	製品
横浜五場	横浜市鶴見區生麦町	大正十四年二月	四百六十萬石	キリンビール 麦芽 糖原糖料水
神崎五場	大阪市外神崎	大正六年五月	十萬石	キリンビール
仙台五場	仙台市小田原	大正十二年八月	五百六十萬石	キリンビール

三 株式會社 壽屋

(一) 本社所在地及設立年月日

大阪市東區住吉町五十二番地

大正十年十二月一日創立

(二) 現在代表者

取締役社長 鳥井信治 郎

(三) 現在資本金

資本金額 二百萬圓 拂込金額 百六十萬圓

(四) 沿革概要

創立 大正十年十二月一日鳥井信治郎氏等資企人トナリ酒精、洋酒及糖ノ製造販賣ヲ目的トシテ資本金百萬圓ヲ以テ株式會社壽屋ヲ創立シ甘味葡萄酒(赤玉ポットワイン)ノ製造ヲ爲ス(工場所在地大阪市港區八條通)

合併増資 大正十年十二月十八日合資會社壽屋洋酒店(出資総額金四十萬圓)發利壽株式會社(資本金六十萬圓)ヲ共ニ合併シ資本金二百萬圓トナル

事業擴張 大正十三年四月大阪府下山崎ニ工場ヲ設ケテ純粋「ウキスキー」ノ製造ヲ開始ス

大正十四年十月函館(スモカ)ノ製造開始

昭和三年四月「ノース」ノ製造開始

工場名	所在地	設立年月	製造能力	製品
横浜五場	横浜市鶴見區市場町	昭和三年十二月八日	四百三十萬石(約三萬五千石)	新カスケードビール
山崎五場	大阪府下山崎	大正十二年四月	約 千 石	純粋ウキスキー (麥芽原料トスモカ)
葡萄五場	大阪市港區八條通	大正十年十二月		甘味葡萄酒 (赤玉ポットワイン)
函館五場	大崎市東區住吉町	大正十四年十月		函館(スモカ)
ノース五場	同上	昭和三年四月		ノース(トリスノース)

(五) 工場所在地、設立年月日、製造能力、製品

(一) 工場所在地 大崎市東區住吉町  
昭和三年十二月横浜市鶴見區所在「カスケードビール」五場ヲ糖原ニヨリ買収シ麥酒ノ製造ヲ開始ス

本 櫻麥酒株式會社

(一) 本社所在地及設立年月日

門司市大里町二千八百五番地

明治四十五年六月設立

(二) 現在代表者

社長 田所美治

(三) 現在資本金

資本金 四百萬圓 拂込金 三百萬圓

(四) 沿革概要

明治四十五年六月創立櫻麥酒ヲ發賣

大正七年製麥五場新設

大正八年 清涼飲料水ノ製造ヲ始メ「ミヨシノレモン」  
 昭和三年 神戶鈴木商店創産ノ影響ヲ受ケテ資本金ノ六分（六百万圓）ヲ切捨テ現在資本  
 金四百萬圓トナル

(五) 工場所在地、設立年月、製造能力、製品ノ種類及名稱  
 昭和四年一月 田社名帝爾麥酒會社ヲ現在名櫻麥酒會社ニ改稱

(4) 工場八本社ト同所ニ在リ  
 麥酒工場設立 明治四十五年六月

能 力 七 萬 石  
 製 品 「サクラビール」 「サクラ黒ビール」

(四) 麥芽工場設立 大正七年  
 能 力 三 萬 石

(三) 清涼飲料水工場設立 大正八年  
 能 力 十 萬 石

製 品 「ミヨシノレモン」 「ミヨシノサイダー」

ハ、麥酒原料株式會社

(一) 本社所在地及設立年月  
 滋賀縣野州郡野州町 大正四年設立

(二) 現在代表者  
 社 長 表 林 又 次 野

(三) 現在資本金  
 五十萬圓 事實上ハ合名會社ト変リナシ

(四) 沿革概要  
 當社ノ創立ハ大正四年ニシテ當時衆知縣知多郡半田町ナリカ葛原麥酒會社ノ歐州大戰ノ影

響ニヨリ麥酒原料麥芽ノ輸入費ノ如クナラズ當時尙繁榮ニ過ラズ有セザル爲麥酒醸造上支障  
 フ志セルヲ以テ之ニ原料供給ノ目的ヲ以テ大阪府北河内郡箕原川ニ創立セラレタルモノナ  
 ルカ大正七年「カブト」麥酒會社ニ於テモ麥芽工場ヲ新設セルヲ以テ其ノ後ハ櫻麥酒會  
 社ト特約ヲ結ヒ工場八箕原川ヨリ現在ノ野州町ニ移轉擴張シテ麥芽ノ製造ヲ繼續シテ今日  
 ニ至ル

尙最近ハ船用麥芽ノ製造ヲ開始セリ  
 (五) 工場所在地、設立年月、製造能力、製品ノ種類及名稱

工場所在地 本社ト同様、設立年月モ同シ  
 製造能力 麥酒用麥芽約四萬石（現在生麥類約二万石内外）  
 船用麥芽約二千石

三、「ホップ」ノ生産及貿易  
(一)「ホップ」ノ生産

年次	栽培面積	生産額	全上乾花ニ換算
大正元年	一八〇	三〇、三六九	六、六八一
二年	一六八	一六、五七五	三、六四六
三年	一六八	四、五六八	一、〇五一
四年	一六八	四、八七五	一、〇七〇
五年	一六八	三、四七〇	七、六三五
六年	一七三	二、八一三	六、一九六
七年	不詳	三、九六二	八、七五九
八年	不詳	四、九六一	一、六三九
九年	不詳	六、一五七	一、四八二
一〇年	六四五	一、二九四	二、六三九
一一年	不詳	一、四七三	四、五三八
一二年	不詳	一、六九四	三、五六九
一三年	五九五	二、三五五	四、一五五
一四年	五二七	一、〇八一	五、六〇五
一五年	五七一	一九八、二三二	四、九三九
一六年	五六一	二〇、七四八	四、八七〇

備考 一、本表中生花ヨリ乾花へノ換算率ハ北海道産ハ二二% 長野産ハ二五% 廣島産ハ三〇%ノ比トセリ

附本邦内地ニ於ケル麦酒及麥芽工場ニ関スル調査(昭和四年七月現在)

會社工場名	所在地	現在代表者	創立年月	現在資本金	現在能力(一年)	醸造麥酒名	備考
一、大日本麥酒株式會社	東京 荏原郡目黒町三田二四七	馬越恭平	明治九年三月	資本金六千四百圓	麥酒釀造 麥芽製造 七十九萬石	アサヒビール、サッポロビール、キリンビール、朝日ビール、黒麦ビール	麥芽百基容量ハ約一石ナリ
目黒工場	荏原郡目黒町三田二四七		明治九年三月		二十萬石	アサヒビール	
吾妻橋工場	本所區中ノ郷瓦町一		明治九年三月		十一萬石	サッポロビール	
吹田工場	三島郡吹田町八、六		明治九年三月		二十萬石	サッポロビール	
札幌工場	札幌市北三條東四丁目番外地		明治九年三月		七萬六千石	サッポロビール	
傳多工場	筑紫郡那珂村那珂一、三三〇		明治九年三月		九萬石	アサヒビール	
名古屋工場	名古屋市中區千種町千種一		明治九年三月		十萬石	アサヒビール	
青島工場	山東省青島堂州路		明治九年三月		一萬四千石	アサヒビール	
二、日本麥酒株式會社	東京 京橋區銀座二丁目九	根津嘉一郎	明治九年十月	資本金二千四百圓	二十五萬石	ニオシビール	
東京工場	北足立郡横濱會社村		明治九年十月		十萬石	ニオシビール	
西宮工場	武庫郡本津町		明治九年十月		十萬石	ニオシビール	
半田工場	知多郡半田町		明治九年十月		五萬石	ニオシビール	
三、麒麟麥酒株式會社	神奈川 横浜市鶴見區生麦町神明七	伊丹二郎	明治四十年三月	資本金八百圓	四十萬石	麒麟ビール	
横浜工場	横浜市鶴見區生麦町神明七		明治四十年三月		四十萬石	麒麟ビール	
神崎工場	川邊郡小田村神崎		明治四十年三月		十六萬石	麒麟ビール	
仙台工場	仙台市小田町		明治四十年三月		十萬石	麒麟ビール	
四、櫻麥酒株式會社	福岡 阿司市大里町二八〇五	田所美治	明治四十年三月	資本金四百圓	七萬石	サッポロビール	
五、松本會社	大阪 大阪市東區住吉町三二	島井信次郎	大正十年十二月	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
六、三島會社	三島郡島本村山崎		大正十三年	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
七、三島會社	三島郡島本村山崎		大正十三年	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
八、三島會社	三島郡島本村山崎		大正十三年	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
九、三島會社	三島郡島本村山崎		大正十三年	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
十、三島會社	三島郡島本村山崎		大正十三年	資本金二百圓	三萬五千石	サッポロビール	
計							

(参考) 外ニ台灣ニ高砂麥酒會社アリ麥酒製造能力約三十萬石?

年次	年	噸數	價	輸入單價(円當)	年次	年	噸數	價	輸入單價(円當)
明治一六	一七	三四六六	三三三一	〇.六七四	明治一八	一九	五四七〇	三四八三九	〇.六三七
一七	一八	三四三七	二〇九	〇.三九六	一九	七八四三	三六八九四	〇.四七〇	
一八	一九	九五四	一八一三	〇.一九〇	二〇	八三六二	五五四四一	〇.六五九	
一九	二〇	一八五七	二七九七	一.五一〇	二一	九一六九六	八八八五〇	〇.九六九	
二〇	二一	三九一六七	七九八七	〇.三五一	二二	一三〇.八〇五	一五三.〇八六	一.一七〇	
二一	二二	五八五三七	一八九二四	〇.三三三	二三	一四二.三二八	一三二.九六〇	〇.八六四	
二二	二三	二六八一	一三三五一	〇.四三三	二四	一八一六六六	一六六.六七六	〇.九一七	
二三	二四	三〇五七一	一三八四七	〇.四三三	二五	七五八四七	六四.五四八	〇.八五一	
二四	二五	一九三三	一三五七八	〇.七〇二	二六	一〇.九六九七	一四.六八三	一.〇四五	
二五	二六	一六〇九七	一〇.五九六	〇.六五八	二七	一四.一六一二	二〇.四八一	一.四四七	
二六	二七	二六三三	一八一六	〇.八〇〇		一四.五五四	一八.三五三	一.三〇四	
二七		二四三五	二六.七〇五	一.〇八八		二六.四一〇六	一八.七九六二	〇.七一三	

(一) ホップの輸入  
(二) 年別輸入類

ニ現在ノ產地ハ北海道及長野ニシテ何レモ大日本麦酒會社トノ契約栽培ニ依ル  
 外ニ廣島縣ニ於テハ栽培組合ヲ依リ大正八年ヨリ今十二年迄栽培シ大日本麦酒會社  
 ニ販賣セリ  
 三、契約栽培ヲ初メタル年次ハ北海道ニ在リテハ明治四十一年・長野縣ニ在リテハ大正  
 七年ナリ

大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
七九八四七	二〇五七二	一〇八六一	八七四六	一七三三	二〇〇六九	二一五三一	一〇〇八九	一五二二〇	四八三七一	二四〇四六	一〇四八七六
二七四三〇	一三三五九	一三〇七一	二一八四	一五八〇四	一七九八八	五九八六二	一九八九五	二二七四一	八四〇七	二五九一三	一〇四八四三
大正一	大正二	大正三	大正四	大正五	大正六	大正七	大正八	大正九	大正一〇	大正一一	大正一二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
七九八四七	二〇五七二	一〇八六一	八七四六	一七三三	二〇〇六九	二一五三一	一〇〇八九	一五二二〇	四八三七一	二四〇四六	一〇四八七六
二七四三〇	一三三五九	一三〇七一	二一八四	一五八〇四	一七九八八	五九八六二	一九八九五	二二七四一	八四〇七	二五九一三	一〇四八四三

大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
二四三三七	二二一三五	一六〇五七	九七九七	二〇四七三	三〇二七〇	二五七九八	二〇四九八	四六二九六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
一八七八〇	一六四〇七	九七九七	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
大正一	大正二	大正三	大正四	大正五	大正六	大正七	大正八	大正九	大正一〇	大正一一	大正一二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
二四三三七	二二一三五	一六〇五七	九七九七	二〇四七三	三〇二七〇	二五七九八	二〇四九八	四六二九六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
一八七八〇	一六四〇七	九七九七	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六

備考 日本表 八六日本外國貿易年表 二版

大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計	大正	昭和	計
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
二四三三七	二二一三五	一六〇五七	九七九七	二〇四七三	三〇二七〇	二五七九八	二〇四九八	四六二九六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
一八七八〇	一六四〇七	九七九七	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
大正一	大正二	大正三	大正四	大正五	大正六	大正七	大正八	大正九	大正一〇	大正一一	大正一二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
二四三三七	二二一三五	一六〇五七	九七九七	二〇四七三	三〇二七〇	二五七九八	二〇四九八	四六二九六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六
一八七八〇	一六四〇七	九七九七	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六	二〇四七三	二〇四七三	四〇九四六



備考 一木表ハ大日本外國貿易月表ニ依ル  
 (ハ)仕出國外別輸入額

年次	米		小麦		其他穀類		其他		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
大正一	1,017	4,311	1,017	4,311					2,034	8,622
二	2,399	10,230	2,399	10,230					4,798	20,460
三	1,701	7,104	1,701	7,104					3,402	14,208
四	4,237	17,348	4,237	17,348					8,474	34,696
五	3,333	13,332	3,333	13,332					6,666	26,664
六										
七										
八										
九										
一〇										
一一										
一二										
一三										
一四										
昭和										
一										
二										
三										

備考 一木表ハ大日本外國貿易月表ニ依ル

(ニ)仕入港別輸入額

年次	米		小麦		其他穀類		其他		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
大正一	1,798	7,191	1,798	7,191					3,596	14,382
二	3,305	13,220	3,305	13,220					6,610	26,440
三	2,835	11,340	2,835	11,340					5,670	22,680
四	1,898	7,593	1,898	7,593					3,796	15,186
五	1,857	7,428	1,857	7,428					3,714	14,856
六	2,391	9,564	2,391	9,564					4,782	19,128
七	2,391	9,564	2,391	9,564					4,782	19,128
八	5,932	23,728	5,932	23,728					11,864	47,456
九	4,357	17,428	4,357	17,428					8,714	34,856
一〇	2,457	9,828	2,457	9,828					4,914	19,656
一一	2,457	9,828	2,457	9,828					4,914	19,656
一二	2,457	9,828	2,457	9,828					4,914	19,656
昭和										
一										
二										
三										

備考 一木表ハ大日本外國貿易月表ニ依ル

四、大麥、麥芽、啤酒及「ホップ」ノ関稅率沿革  
 (一)大麥、麥芽及「ホップ」

年度	施行期	税率	課税額	備考
明治三十二年一月一日	明治三十二年一月一日	5%	100,000	
明治三十六年四月一日	明治三十六年四月一日	5%	100,000	
明治三十八年七月一日	明治三十八年七月一日	5%	100,000	
明治三十九年十月一日	明治三十九年十月一日	5%	100,000	
明治四十一年一月一日	明治四十一年一月一日	5%	100,000	
明治四十一年七月十六日	明治四十一年七月十六日	5%	100,000	
明治四十四年七月十七日	明治四十四年七月十七日	5%	100,000	
大正十二年九月十七日	大正十二年九月十七日	5%	100,000	
大正十五年三月二十九日	大正十五年三月二十九日	5%	100,000	

(二) 麦酒

年度	施行期	税率	課税額	備考
明治三十二年一月一日	明治三十二年一月一日	5%	100,000	
明治三十四年十月一日	明治三十四年十月一日	5%	100,000	
明治三十九年十月一日	明治三十九年十月一日	5%	100,000	
明治四十一年九月一日	明治四十一年九月一日	5%	100,000	
明治四十四年七月十七日	明治四十四年七月十七日	5%	100,000	
大正九年八月一日	大正九年八月一日	5%	100,000	
大正十三年七月三十一日	大正十三年七月三十一日	5%	100,000	
大正十五年三月二十九日	大正十五年三月二十九日	5%	100,000	

備考 一本表ハ大蔵省発行関税率ノ沿革ニ依ル

三、麦酒用大麦及麦芽ノ重量及容量並麦芽及麦酒ノ生産歩止

種	列	一石	備	重	量	百	斤	備	容	量
麦酒用大麦	麦			三	噴					五斗三升
麦酒用大麦	麦			二	噴					六斗二升

四、麦芽及麦酒ノ生産歩止

原料	科	製	品	備	考
麦酒用大麦	一石	麦	約七八斗	(重量歩止七八%)	
麦酒用大麦	一石	麦	二石	容量歩止	
麦酒用大麦	一石	麦	二石七斗	容量歩止	

備考 一本表ハ各麦酒會社ノ調査ヲ平均セシモノナリ

# 農事改良資料目錄

番 號	名	編	刊 行 年 月
第一	優良農用器具機械ニ関スル調査		昭和4年4月
第二	種藝ニ関スル協議會要録		4年6月
第三	穀物検査事業要覧第六號		4年8月
第四	穀物火力乾燥装置ノ概要		4年10月
第五	道府縣農事試験場ニ於ケル陸稻ニ関スル試験成績概要		4年12月
第六	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覧		5年3月
第七	昭和二年度農具共同利用ニ関スル調査		5年3月
第八	肥料要覧		5年3月
第九	病菌害蟲驅除豫防協議會要録		5年3月
第一〇	昭和三年輸移出入植物検査統計		
	附 輸移出入植物病菌害蟲調査研究事業概要		5年3月
第一一	麥其ノ他穀物要覧		5年3月
第一二	本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥及麥酒ニ関スル調査		5年3月

昭 和  
五 年  
三 月  
三 十 一 日  
發 行

昭 和  
五 年  
三 月  
二 十 五 日  
印 刷

農 林 省 農 務 局

東京市外龍野川町中里二九四

印刷者 中平義次

終